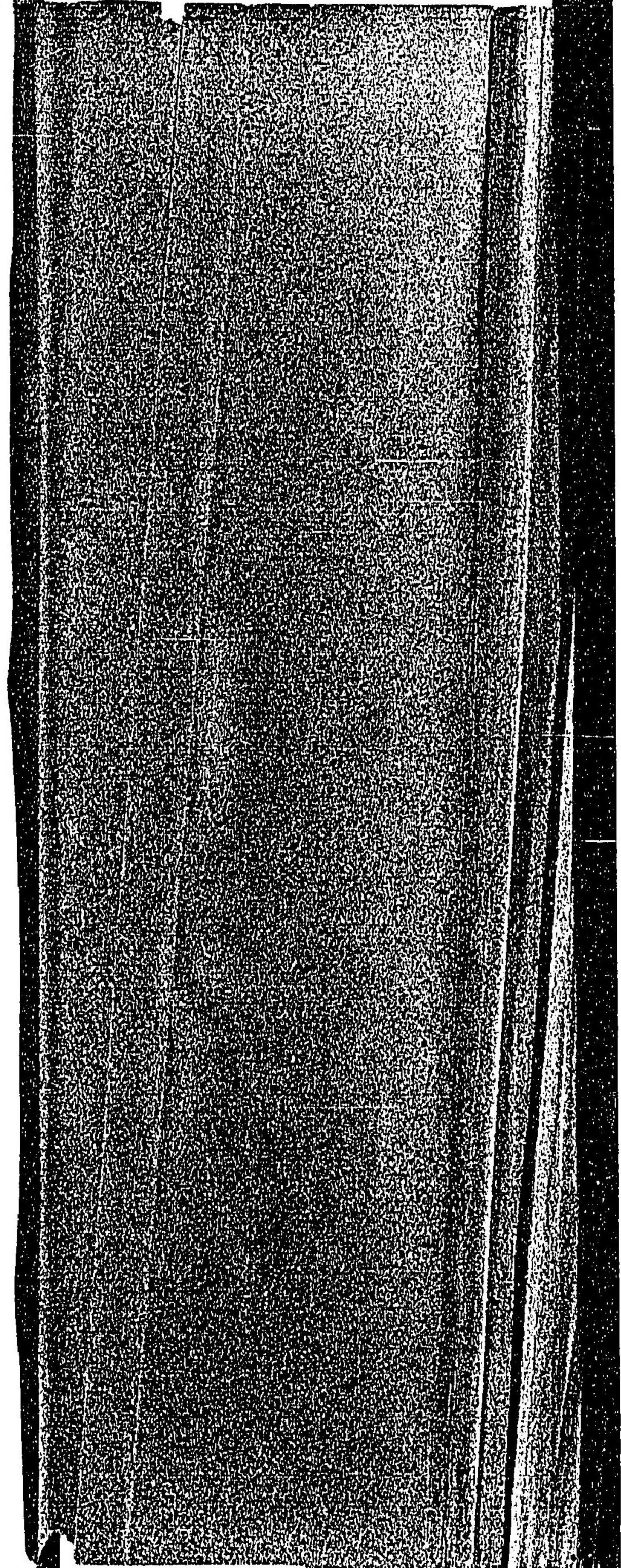


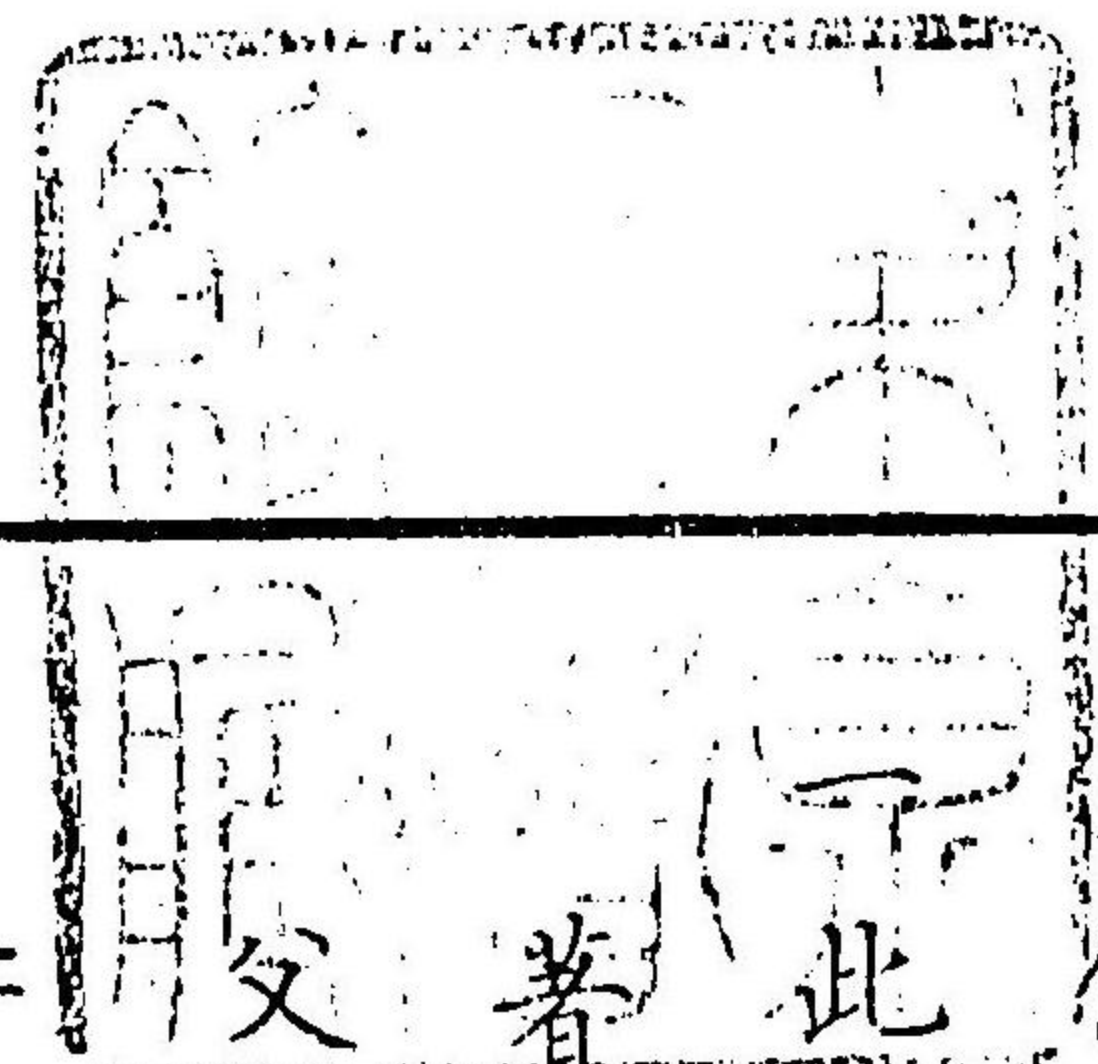
著者ルゲンナツプロクト

新物學圖解

譯者 大橋 米 岩



403-59



凡例

此書ハ獨國有名ノ動物博士フヒツチンゲル氏ノ著ハス所口而ノ學者必要ノ良書ナリ曩日余父教章澳國維也納府ニ詣リシ時該書ノ吾邦ニ有益ナルヲ知り携歸セシ者ニシテ今之レヲ譯述シテ聊カ動物學ノ闕乏ヲ補ハントス

一原書ニ於テ猴簇類ヲ以テ第一目トシ翼手類ヲ以テ第二目トシ猛獸類ヲ以テ第三目トス然リト雖モ今彫刻上ノ便宜ヲ以テ原書第三目ニ置クベキ猛獸類ヲ第一目トス覽者幸ニ察セヨ或ハ原書ノ題目ニ異ナルアリト雖モ亦其次序ヲモ普ク載記セリ

一原書ノ西圖ハ石版ヲ用ユ故ニ精巧細密ヲ極ム今此書ノ如キハ則チ銅版ヲ用ユ故ニ精細ヲ盡スヲ得ズ然リト雖モ素ヨリ其模範ニ於テハ曾テ原質ヲ失ハザルナリ

一原書ハ獸類ヲ以テ一卷トス今之レヲ類別シテ四卷トナシ逐次出版シ以テ覽者ノ便ニ供セント欲スルノミ

明治十八年二月

譯者識

動物學圖解全部總目錄

○第一編

一卷之一 脊椎動物 哺乳動物
有爪哺乳動物 猛獸類

一卷之二 猛獸類 猴族類
翼手類 有囊類

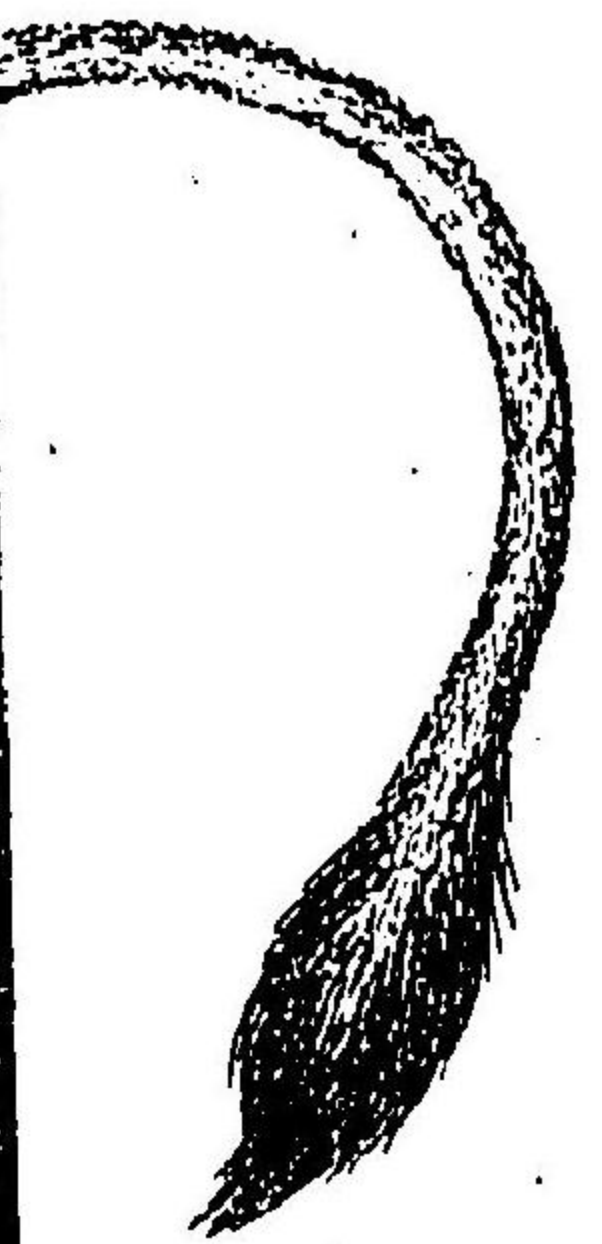
一卷之三 啮齒類 貧齒類
有蹄動物 多蹄類
單蹄類

一卷之四 雙蹄類
一卷之五 海哺乳動物 鱗足類
海牛類 游水類

○第二編 鳥類

○第三編 魚類

○第四編 虫類



第壹圖 壯獅子

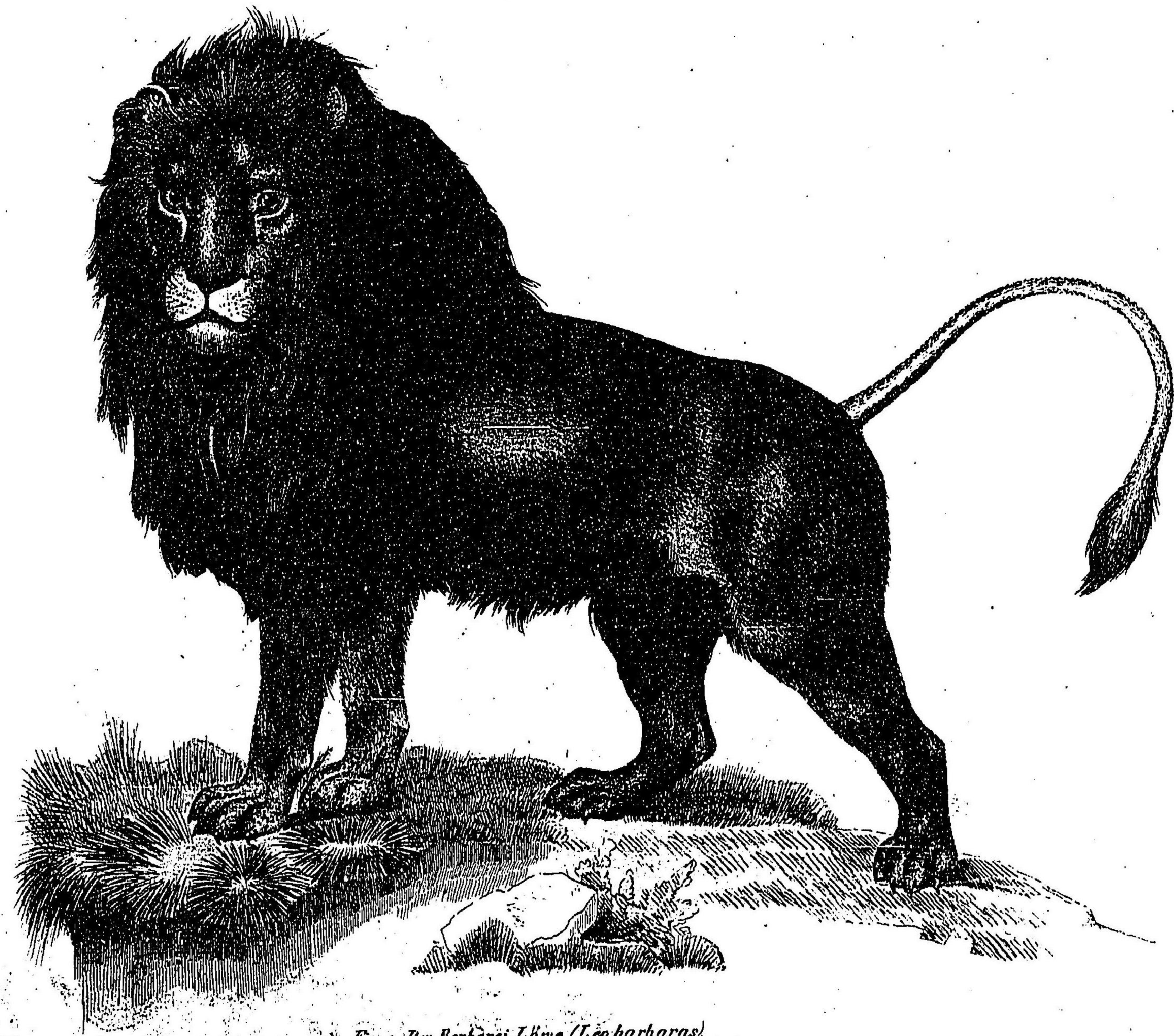


Fig. 1. Der Berberer Löwe (Leo barbarus).

第二圖 牝獅子



Fig. 2. Der Berberet, Lowe' (Leo barbaras)

第三圖 亞米利加獅

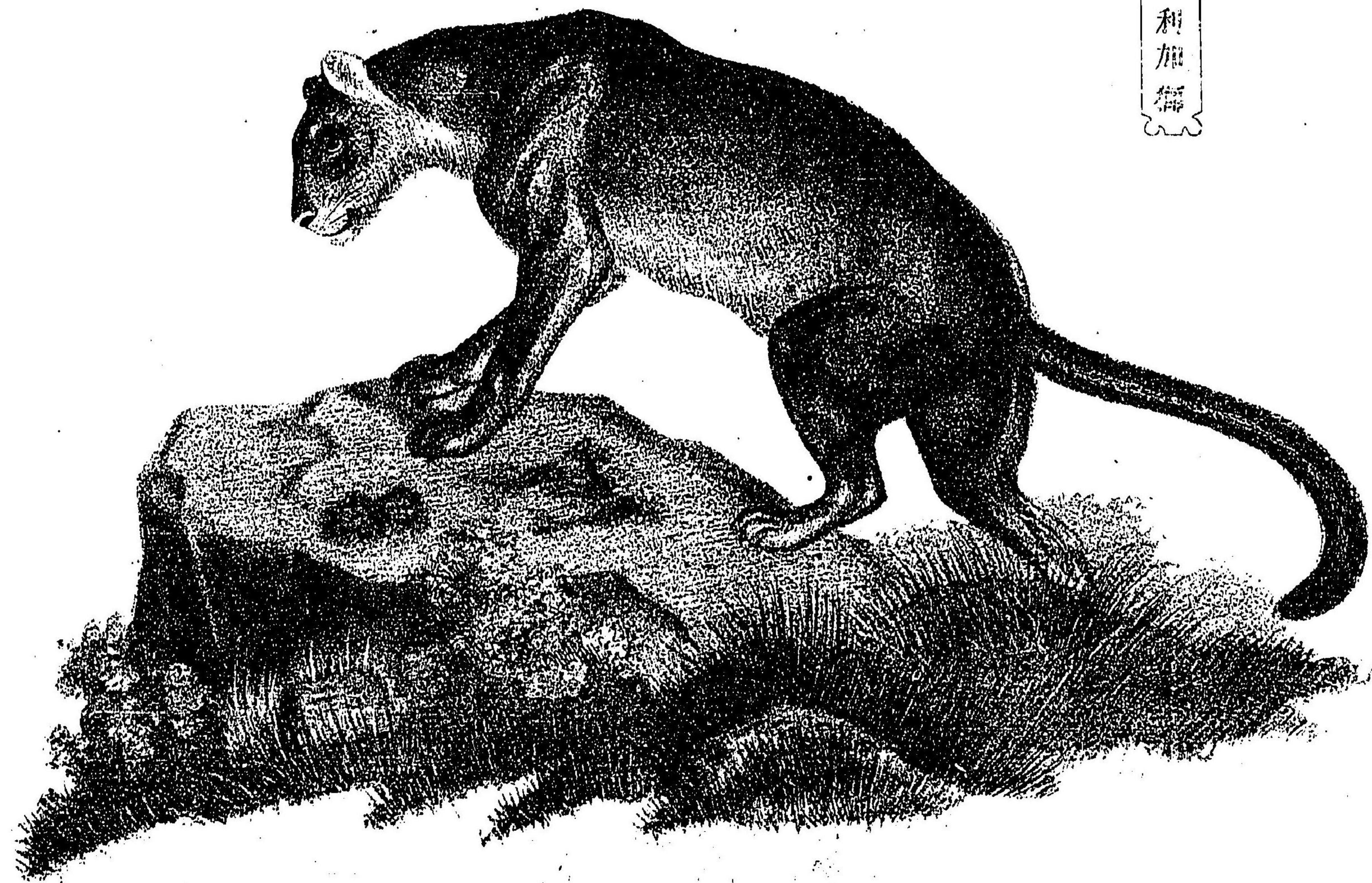


Fig 3 Der Kugnar oder Lomentiger *Felis concolor*

第五圖
虎
猫

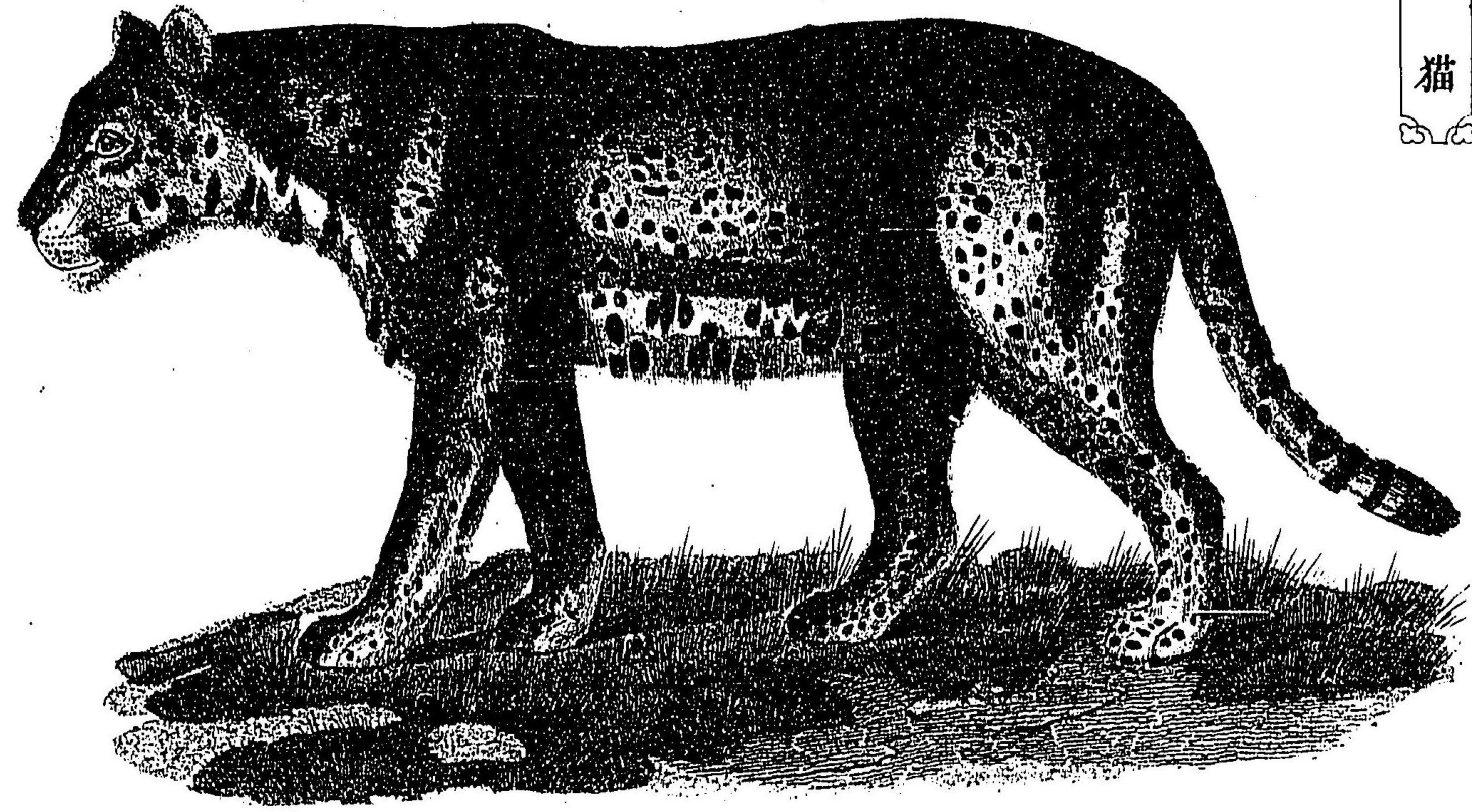


Fig. 5 Der Jaguar (Felis Onca.)

第六圖
白
豹

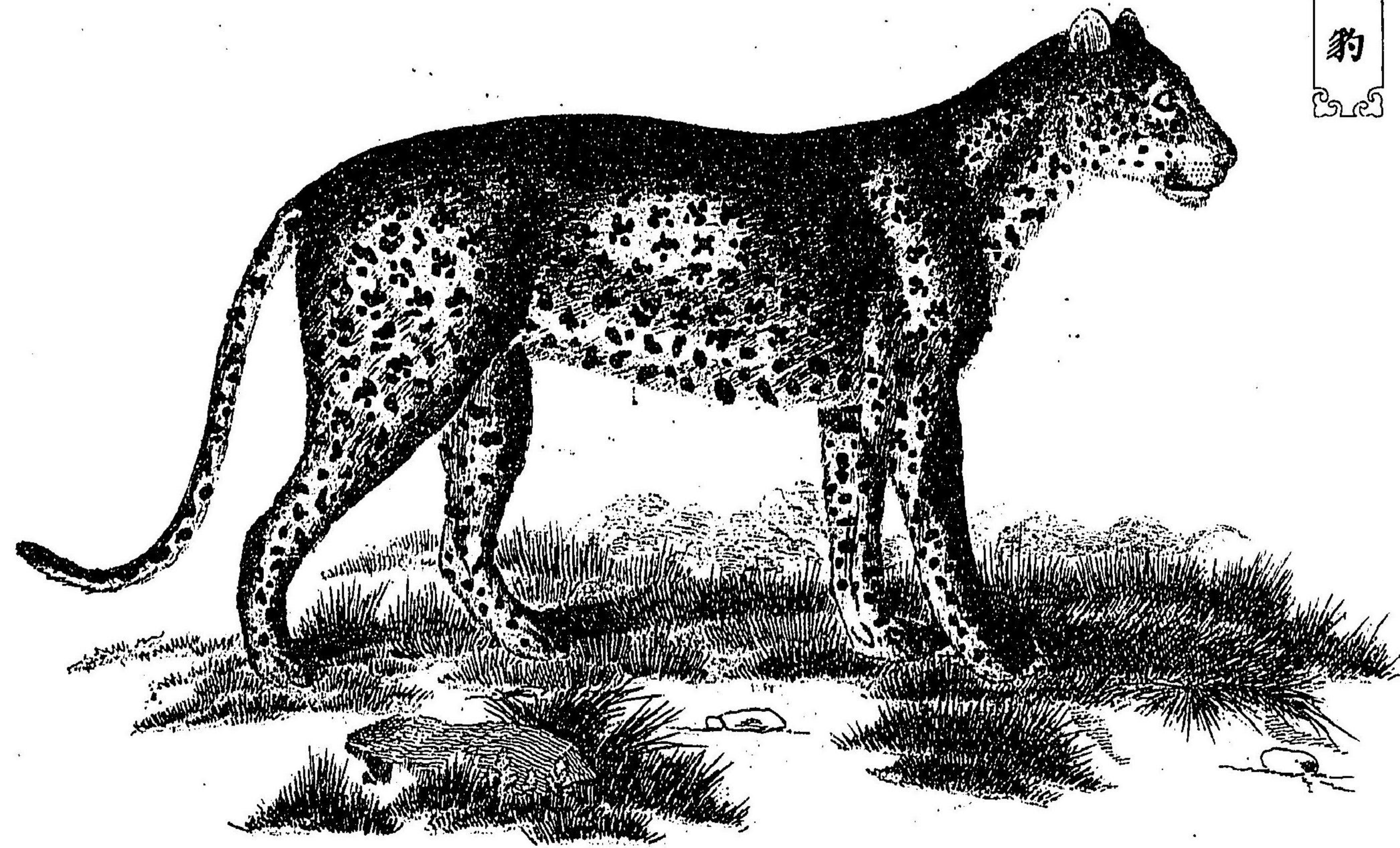
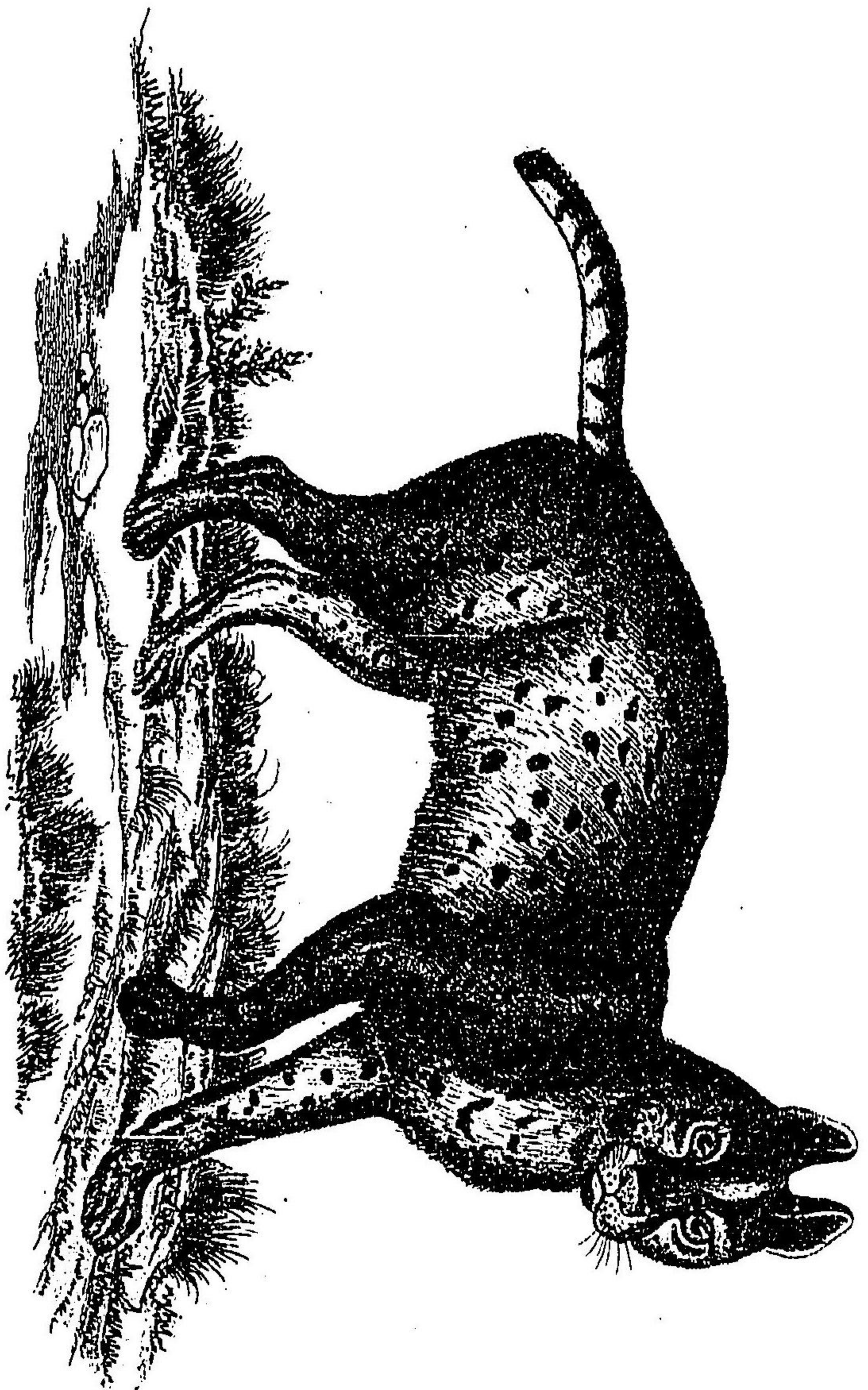


Fig. 6 Der Leopard (*Felis leopardus*)



第七圖
赤豹
第八圖
貓豹



第七圖 赤豹 (Felis pardalis)
第八圖 貓豹 (Felis serval)

第九圖 野貓
第十圖 家貓

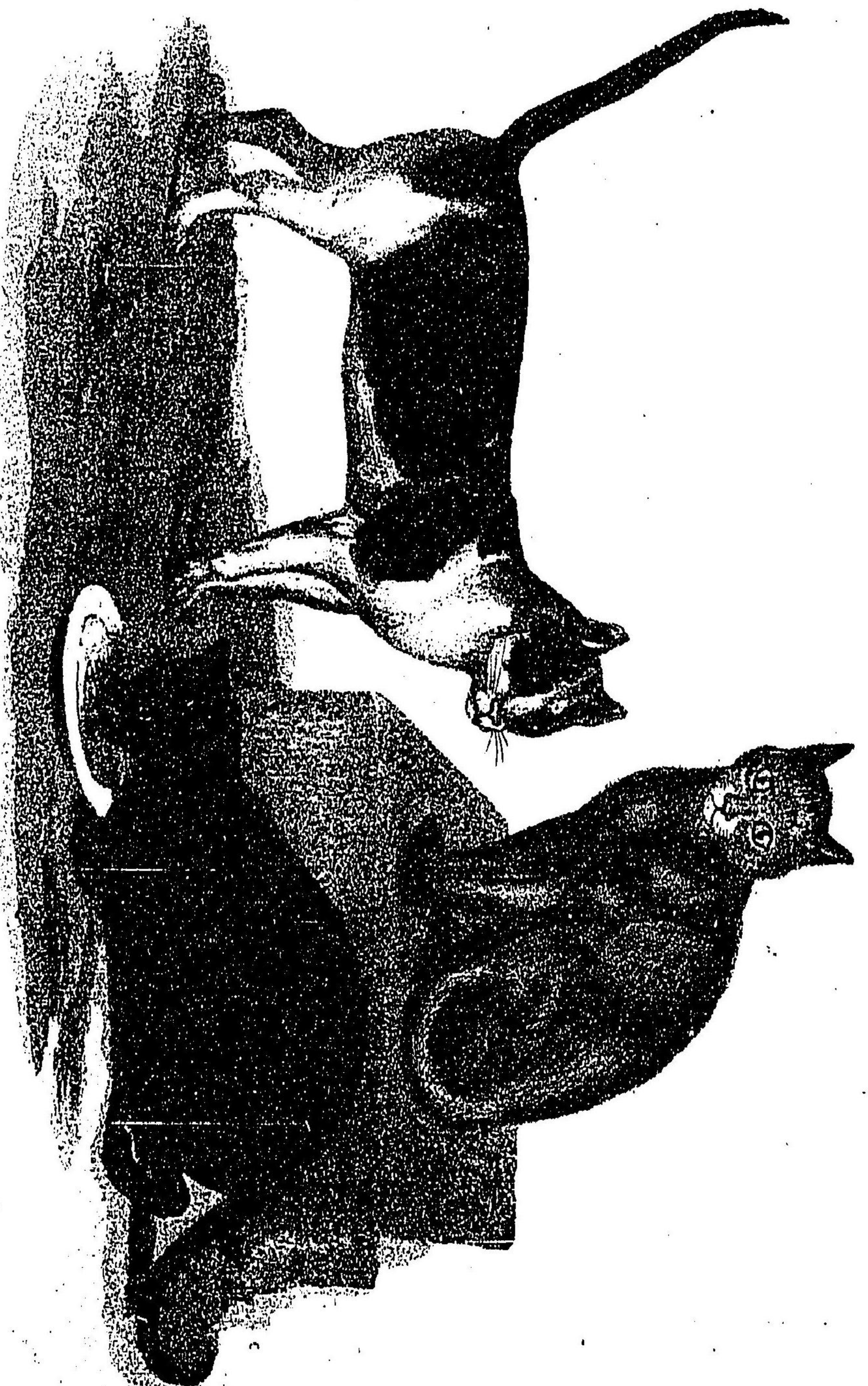
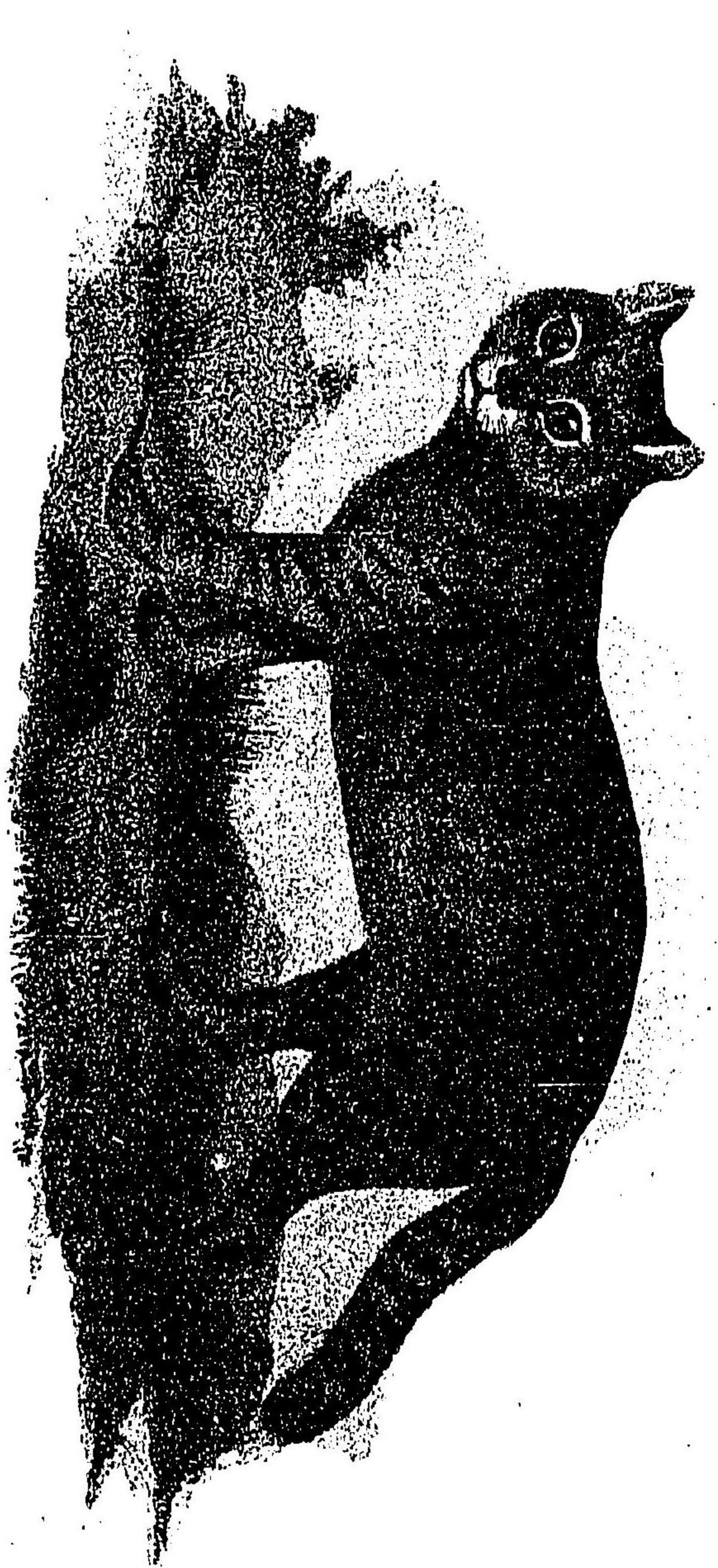


Fig 9 Die Wildkatze oder der wilde Hinz (*Felis ferus*)
Fig 10 Die Hauskatze oder der zahme Hinz (*Felis domestica*)
a) Die spanische Katze (*Felis domestica hispanica*)
b) Die Karthäuser-Katze (*Felis domestica coenulosa*)
c) Die Cyper Katze (*Felis domestica strata*)

第十一圖 狩
第十二圖 毫耳野貓

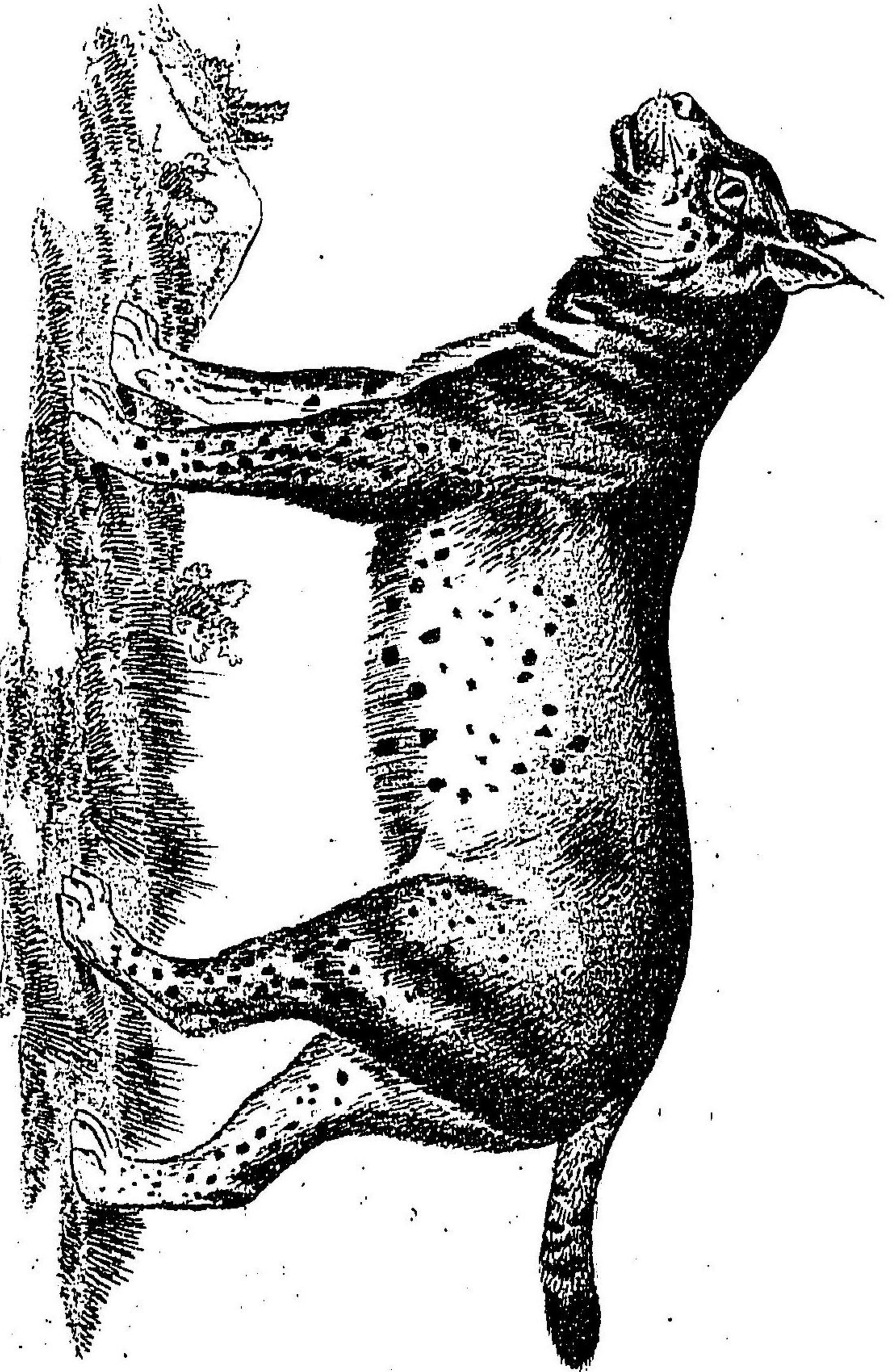
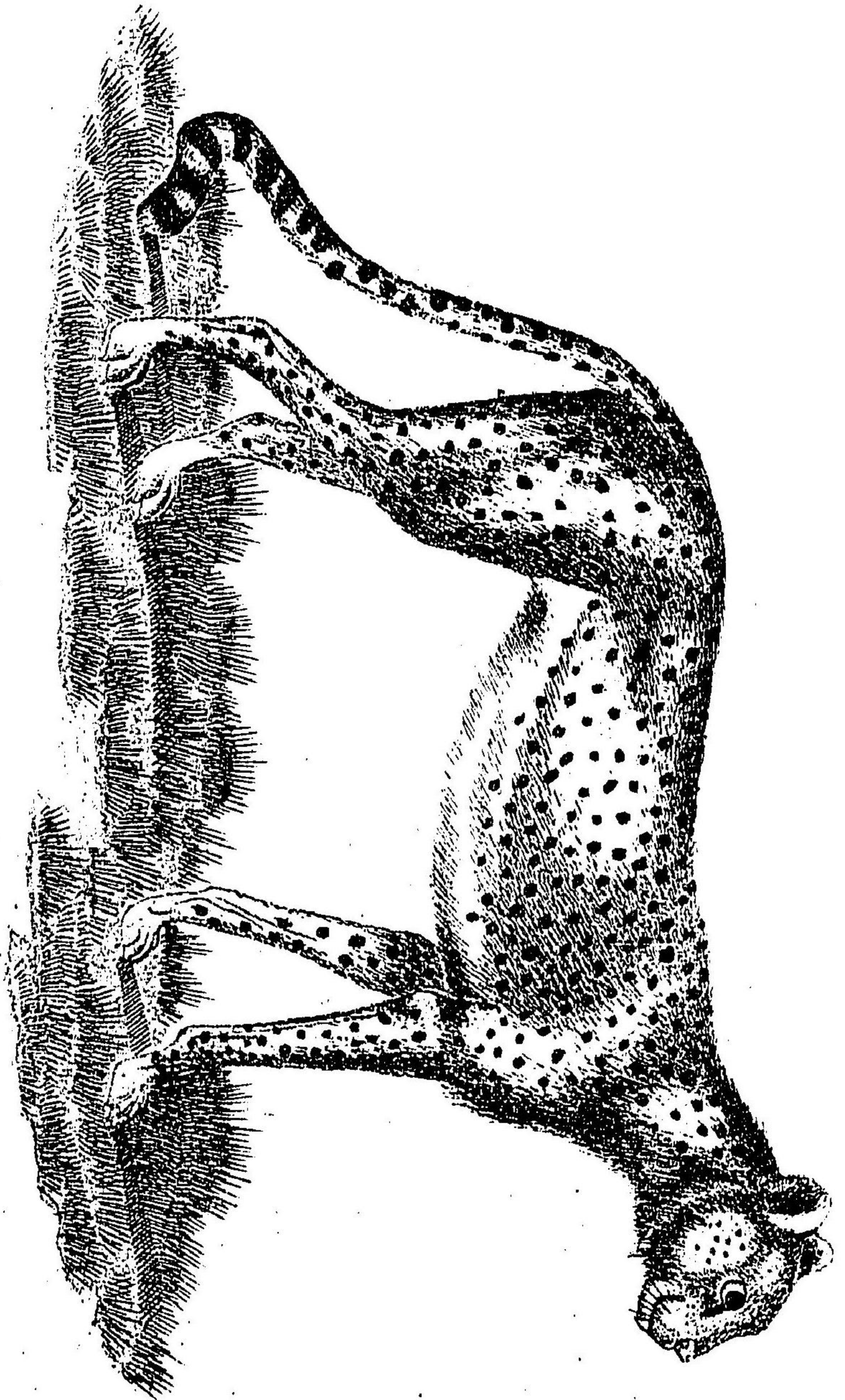
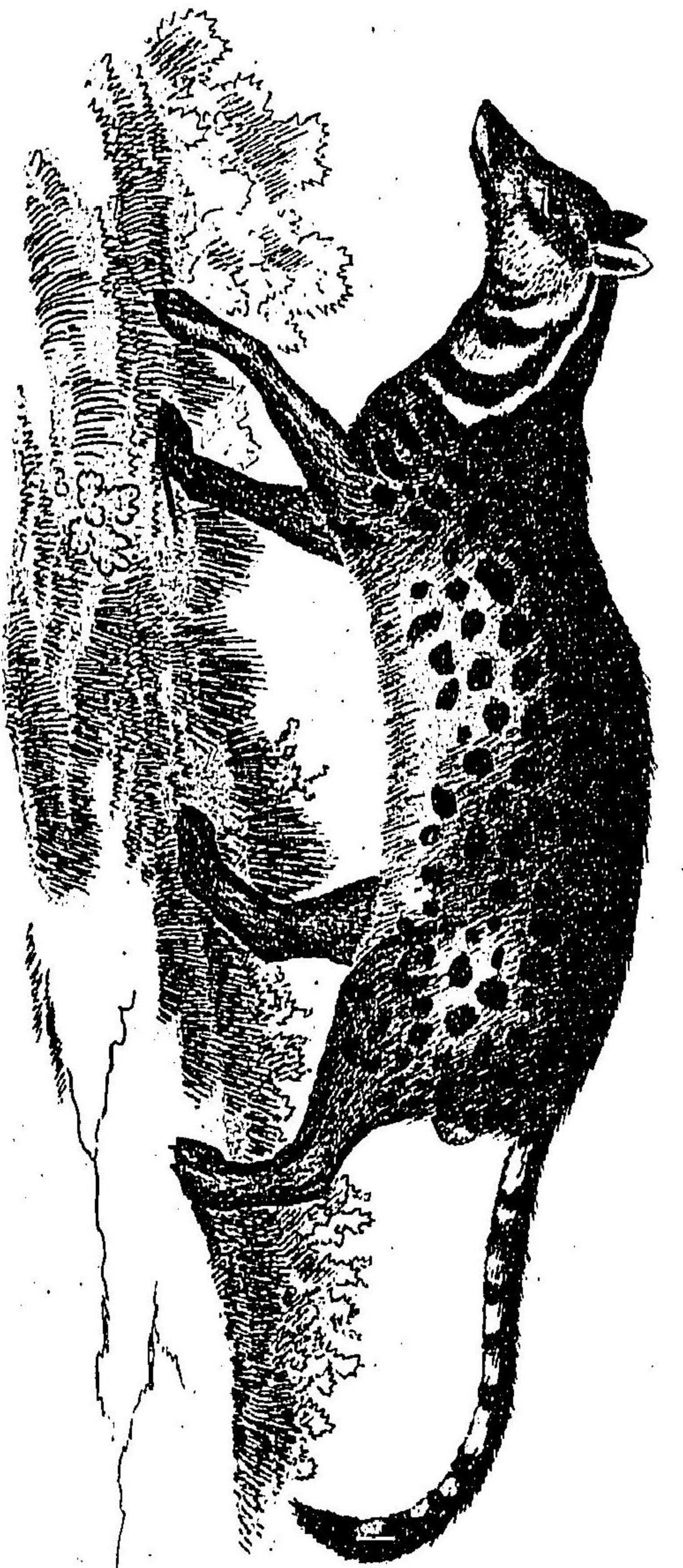


Fig. 11. Der afrikanische Gepard oder Jagd Leopard. (Cynailurus guttatus).
Fig. 12. Der gemeine Leopold (Lynx vulgaris).



第十三圖
アフリカ靈猫
第十四圖
靈猫



(*Viverra Zibetha*)
Fig. 13 Die Civette oder afrikanische Zibethkatze
Fig. 14 Die echte oder asiatische Zibethkatze
(*Viverra Zibetha*)

第十五圖 斑貓
 第十六圖 卷尾貓
 第十七圖 狸貓

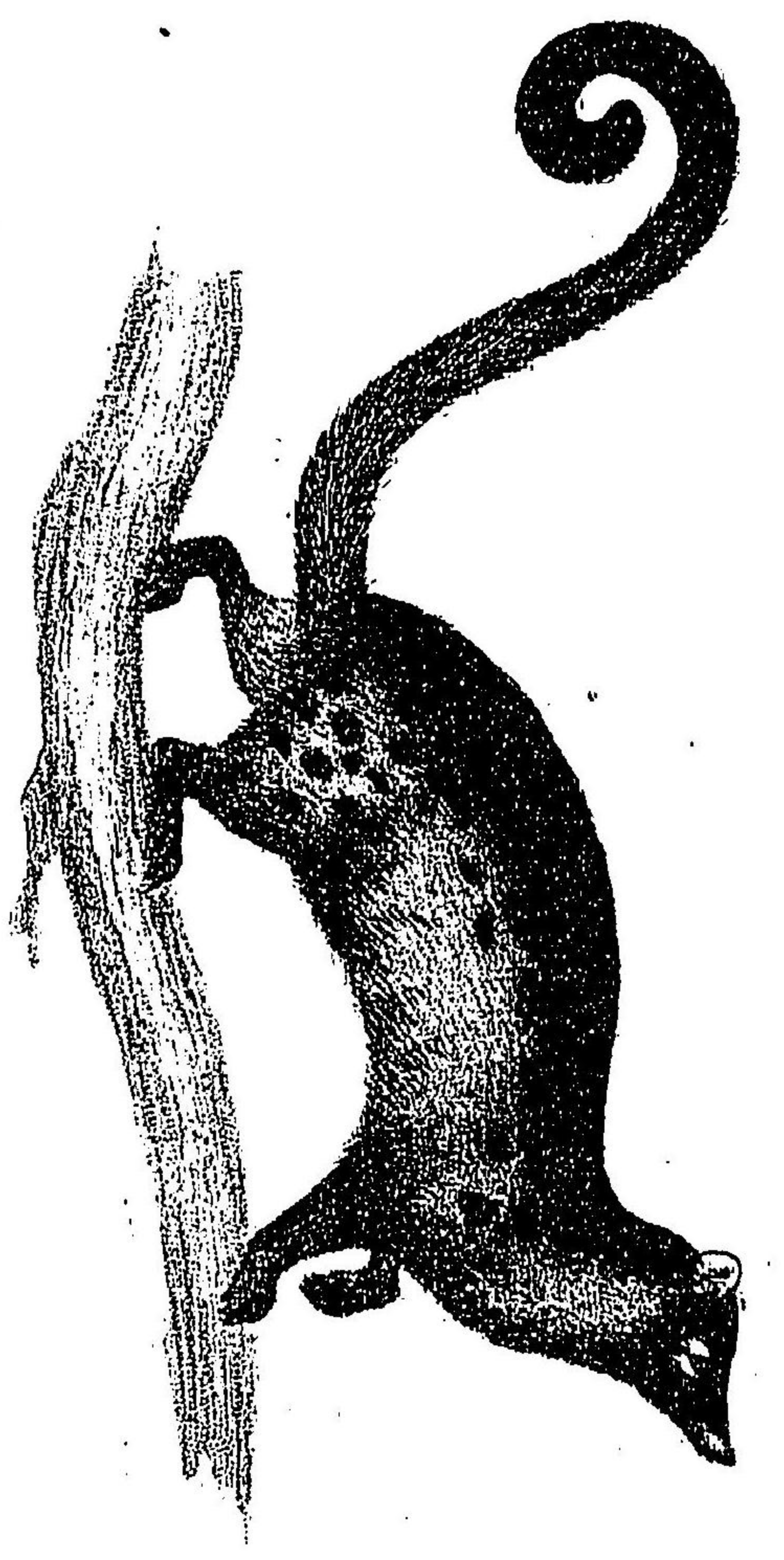
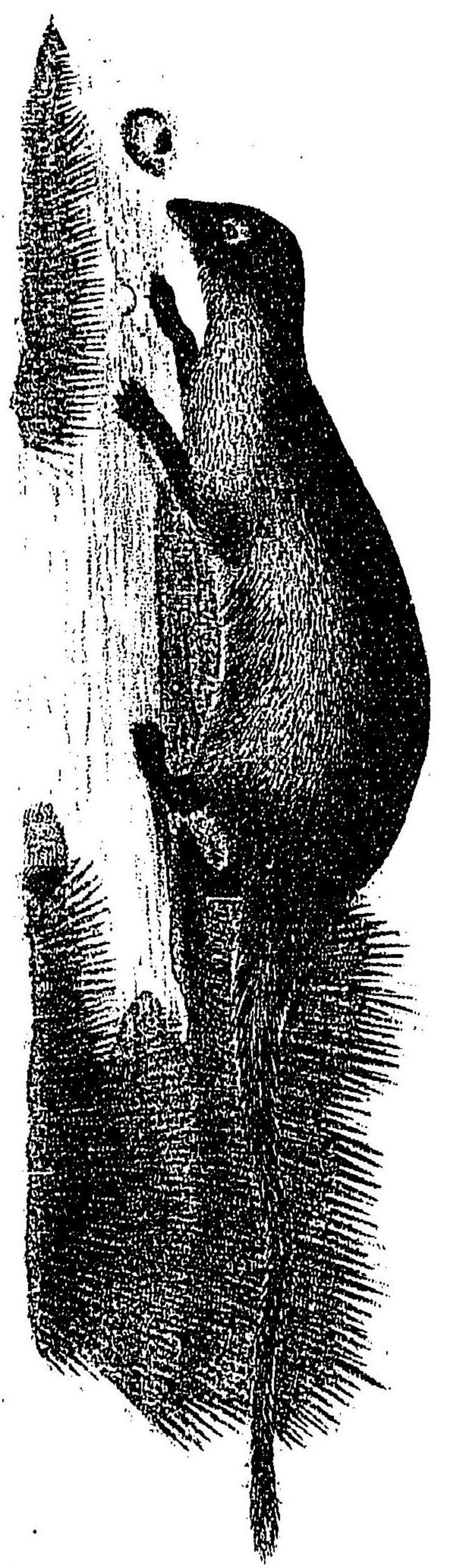
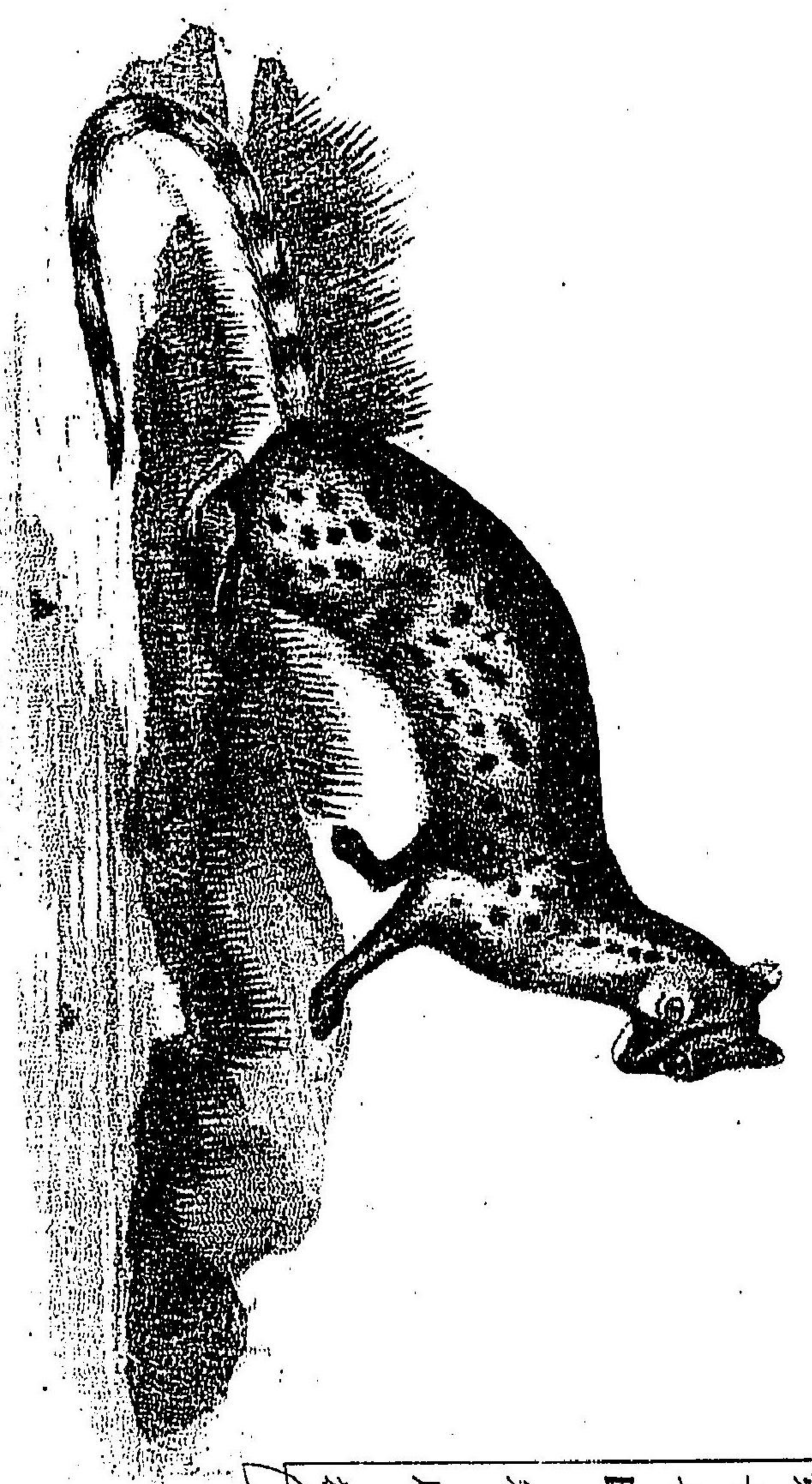


Fig. 15 Die gemeine Genette (*Genetta affinis*)
 Fig. 16 Der ägyptische Mohrenhund oder die Pharaonenkatze (*Hesperetes Pharaonis*)
 Fig. 17 Der gemeine Rott oder Palmensardier (*Paracitellus typus*)



第十八圖
風犬
第十九圖
犬

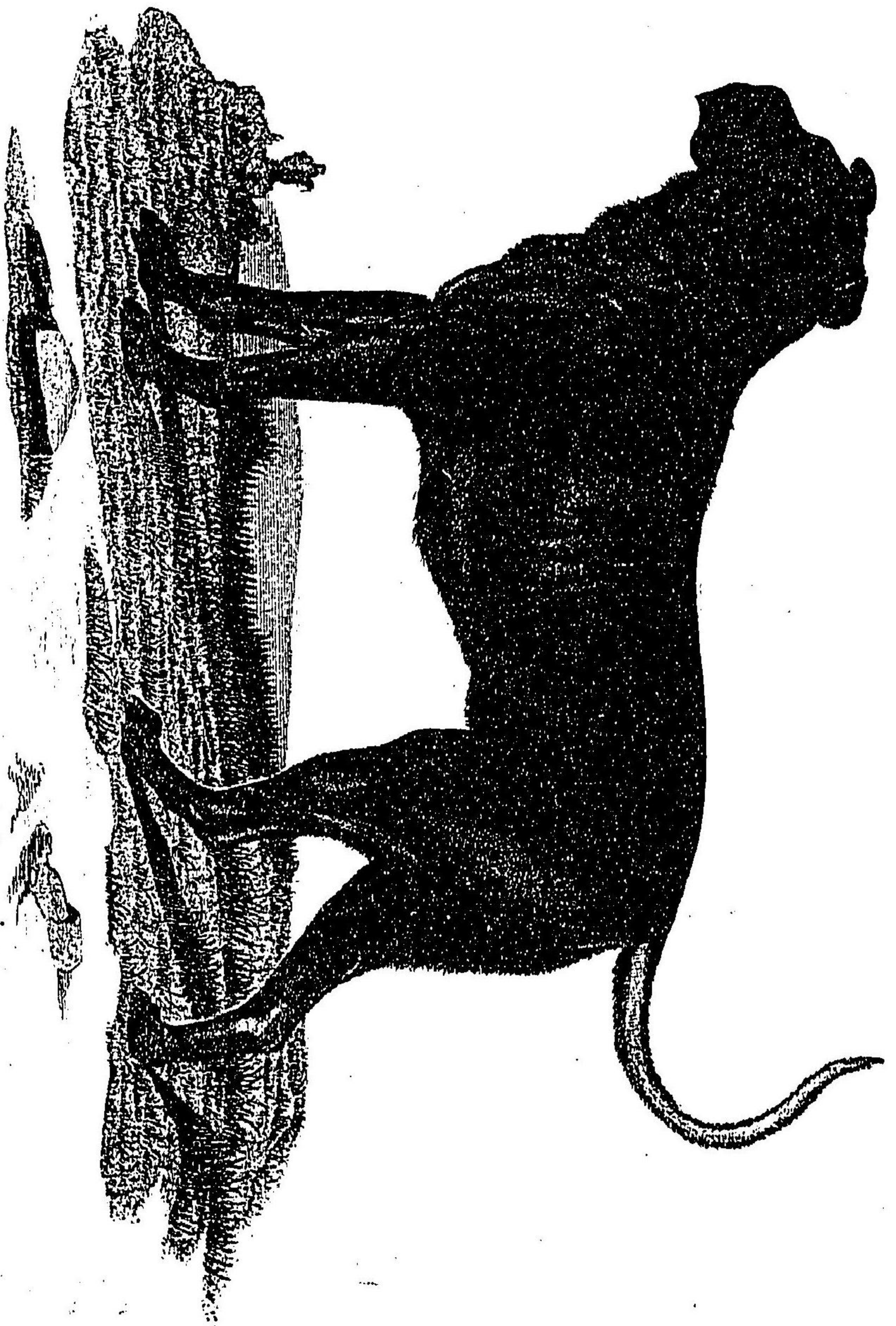


Fig 18 Der große Windhund Canis leporarius
Fig 19 Der Ballarbeiter Canis Molossus.



第二十圖
曲脚犬
第二十一圖
前立犬

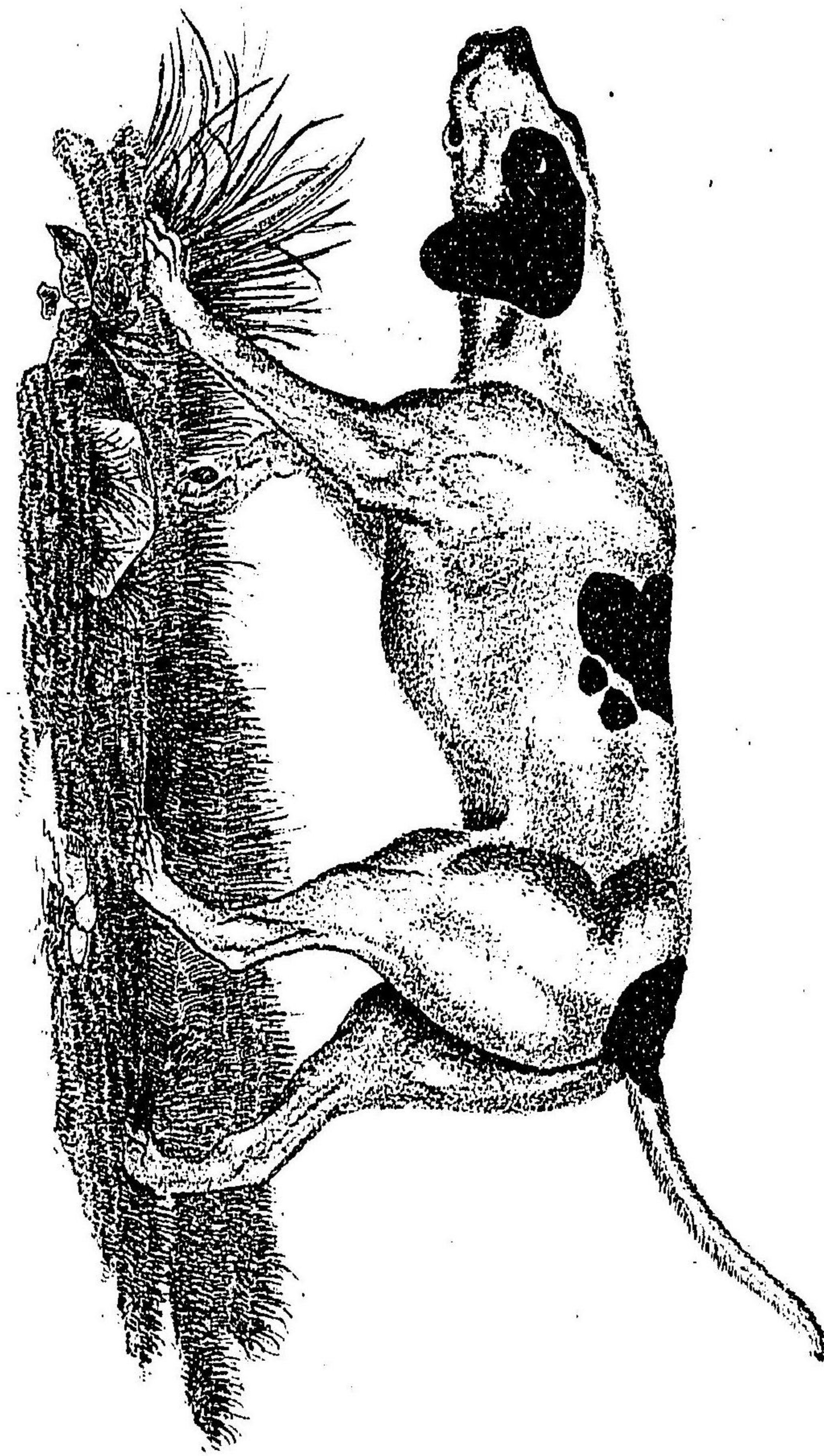


Fig. 20 Der krummbeinige Dachshund (*Canis Vulpinus*).
Fig. 21 Der Vorsteckhund (*Canis sagax venaticus major*).

第二十二圖 新著大嶋犬
第二十三圖 狼



Fig. 2. Der Kufbandlander - Hund (Canis extenuus aquaticus - terra novae.)

Fig. 2.3 Der gemeine Wolf (Canis Lupus.)



第二十四圖 狐
第二十五圖 狼



Fig. 24 Der gemeine Schakal (*Canis aureus*)
Fig. 25 Der gemeine Fuchs (*Vulpes vulgaris*)



第二十六圖 斑色狗
第二十七圖 斑條鬃狗

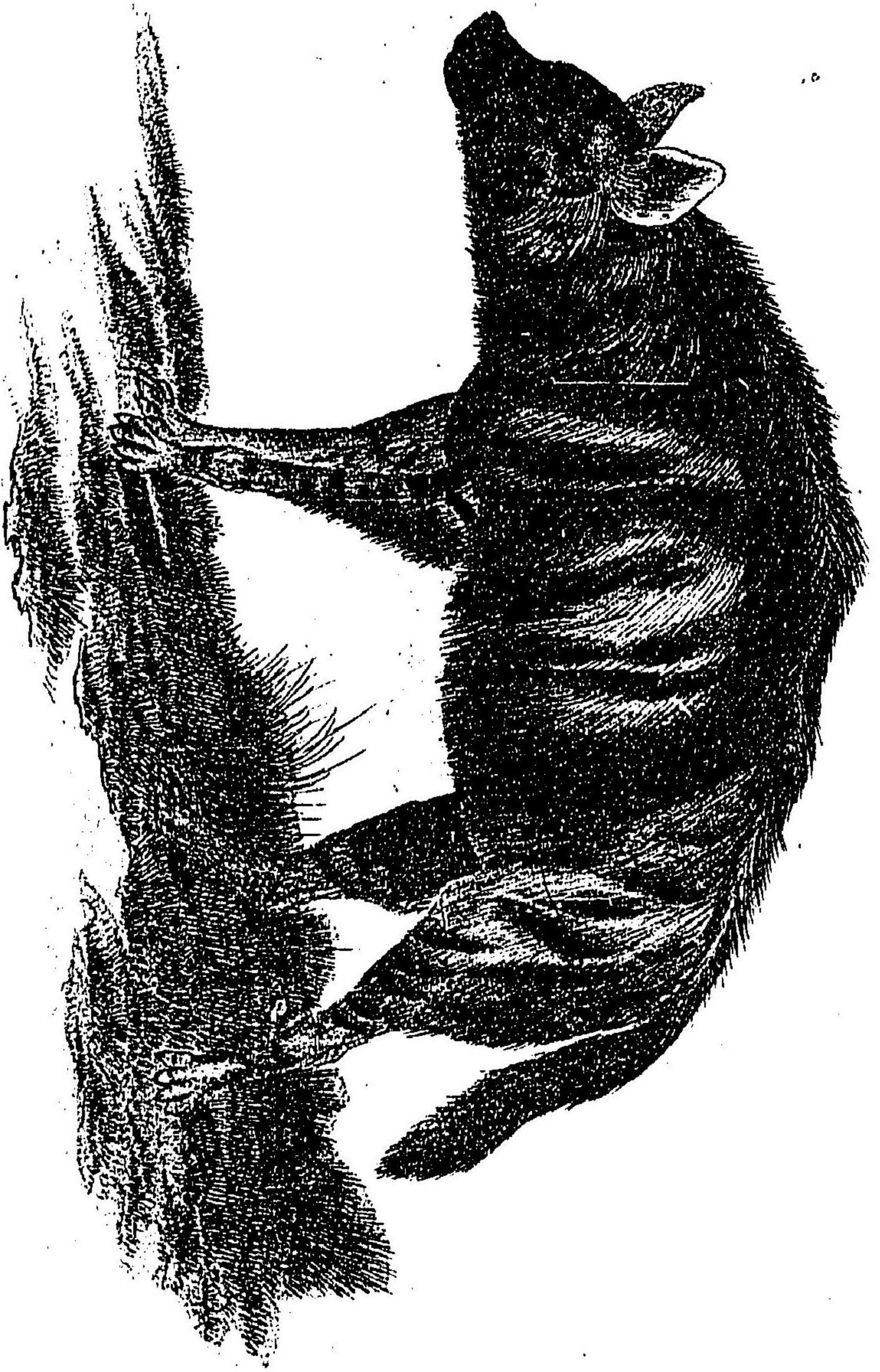


Fig. 26 Der Hyänenhund (*Lycaon pictus*)
Fig. 27 Die gestreifte Hyäne (*Hyæna striata*)

動物學圖解初編卷之一

原著者 動物博士エツチンゲル氏

圖畫并翻譯 岩橋米太郎

脊椎動物

夫レ動物トハ一定ノ形狀ヲ有シ知覺アリテ隨
意ニ運動シ得ル有機體ノ總稱ニシテ一ハ其通
形ニ依リ一ハ其器官ニ從ヒ之レヲ大別ス而シ
テ其体格ノ發育最モ完備ニシテ人種ニ近キモ
ノヲ脊椎動物ト名ツク

此脊椎動物ノ内骨格ハ骨質ヨリ或ハ稀レニ軟
骨質ヨリ型成スルヲ以テ自他ノ動物ト能ク之
レヲ區別スルヲ得ヘシ骨格ハ軟部ノ支柱ニシ
テ運動ニ必用ナル筋肉ノ結合アリ今マ体内ノ中
心ニ一線ヲ引キ以テ其各機ヲ檢ミスルニ或ハ
單隻ナルアリ例ヘハ腸管或ハ其兩側ニ一對ナ
ルアリ而シテ多クハ隻對ナルヲ以テ脊椎動物
ハ等側動物ナリト知ル可シ

骨格ハ髑髏、胴部及肢部ヨリ成立ツモノニシテ
其發育脊椎動物ニ在テハ種々ノ變態ヲ受ルカ
故ニ之レヲ論ズルニ當テハ先ツ骨格ノ定形セ
ルモノヲ撰ブヲ良シトス人種ノモノ即チ之レ

ニ適ス

髑髏ヲ大別シテ腦蓋及顔部トナス顎骨眼腔及
鼻腔ノ如キハ之レヲ顔部ニ属ス顎骨ハ各二箇
ノ上、中及下顎骨ヨリ成立ツモノニシテ此中顎
骨ハ諸脊椎動物ニ在テハ通常固ク自他ノ髑髏
部分ト共ニ成長スレト持リ魚類ニ在テハ然ラ
ズ又タ人種ノモノニ在テハ相互ニ融合スルモ
ノナリ下顎骨ハ其前部亦タ同ジク合成シ上下
ニ運動スルモノナリ

胴部ヲ分テ脊椎柱及肋骨ノ二トナス甲ハ數種
ノ脊椎頸椎、胸椎、腰椎、尾椎、閶椎ヨリ型成シ乙ハ軟骨ヲ以
テ胸骨ト結合スルモノナリ

三角形肩胛骨及長形鎖骨ハ關節窩ト共ニ一ノ
骨環ヲ形成シ以テ前肢部ノ用ニ供シ骨盤モ亦
タ之レト同ジク後肢部ノ用ニ供スルモノナリ
前肢ハ上腕骨、二箇ノ下腕骨尺骨及橈骨手骨ヨリ構
造シ後肢ハ大腿骨、下腿骨脛骨及腓骨及ヒ足骨ヨリ形
成ス手骨ハ掌骨基底散子型ノ骨ニシテ二列ヲナス中手骨五箇
ノ長骨併列及ヒ指骨ヨリ成立ツ但シ指骨ニ在
テハ拇指骨ノ他ハ各三箇ノ關節ヲナシ特リ拇

指骨ハ二箇ノ關節ヲ具ノルモノトス足骨モ亦
夕全ク手骨ト等シク蹠骨基底膨大セル跟骨ヲ有ス中足
及足指ヨリ型成ス
脊椎動物ノ發育最モ高階ニ位スルハ其神経系

造シ後肢ハ大腿骨下腿骨脛骨及ヒ足骨ヨリ形
成ス手骨ハ掌骨基底骰子型ノ骨ニシテ二列ヲナス中手骨五
ノ長骨併列及ヒ指骨ヨリ成立ツ但シ指骨ニ在
スルモノテハ拇指骨ノ他ハ各三箇ノ關節ヲナシ特リ拇

指骨ハ二箇ノ關節ヲ具ノルモノトス足骨モ亦
夕全ク手骨ト等シク蹠骨基底膨大セル跟中足
及足指ヨリ型成ス

脊椎動物ノ發育最モ高階ニ位スルハ其神経系
統ノ完全ナルニアルナリ而シテ腦ハ其中心ヲ
形成シ脊椎体ノ上突起管中ニ存スル脊髓之レ
ニ連續ス無數ノ神經ハ此腦及脊髓ヨリ發シ体
ノ器官中ニ達スルモノトス此神經ニ依テ諸感
觸ハ腦中ニ傳達シ且ツ諸思慮ハ之レニ依テ腦
ヨリ顯出スルモノナリ

胴部中ニハ殊ニ營養及ヒ繁殖ニ用フベキ器官
存在スルモノトス營養器ヲ分テ消化循環及ヒ
呼吸ノ三器トナス其他總脊椎動物ニハ兩性ア
リテ其生殖ハ胎兒ニ依リ或ハ卵ヨリ之レヲ逐
クルモノトス

脊椎動物ヲ大別シテ四トナス(第一)哺乳動物第
(二)鳥類第(三)水陸動物第(四)魚類是レナリ

第一綱 哺乳動物

哺乳動物トハ赤温血ヲ有シ肺ニ依テ呼吸シ生
活シタル兒ヲ産ミ乳房ヨリ發スル乳汁ヲ以テ

之レヲ養育スル脊椎動物ノ總稱ナリ此動物ハ
脊椎動物中ノ最良完備セル器官ヲ有スルモノ
ニシテ人種ニ最モ能ク類似スルモノナリ生活
上ヨリ之レヲ見レハ其外現象ニ大差アリ例ヘ
ハ蝙蝠象鯨等ニ於テ明了ナルガ如シ又々外型
上ニ付テハ表皮上ニ角様物ノ分歧セルモノ即
チ羽毛ノ缺乏スルアリ或ハ單一ナル角様糸ノ
現存スルアリ以テ著明ナリトス此角様糸ハ或
ハ毛髮ナルアリ粗毛ナルアリ或ハ刺ナルアリ
全体ノ裸ナルハ甚ク稀レナレモ各單一部分ニ
在テハ多シトナス肢部ノ形狀ハ全ク生活ノ方
法ニ關ハルモノニシテ或ハ翼或ハ鱗或ハ脚ナ
リ如此キモノハ主モニ体皮ヨリ被包サレ多少
胴部中ニ籍入ス其他ハ多ク体外ニ顯ハル、モ
ノナリ足指ノ被服ハ緊要ナル特徴ヲ示スモノ
ニシテ今マ角様体ノ足指關節ヲ全ク包ム片ハ
之レヲ蹄ト名ケ唯々上面ニノミ止リテ前方ニ
曲垂シ多少銳尖ヲナス片ハ鈎爪ト稱シ又ク爪
部節ノ背部ニ於テ扁キ角様板ヲ型成スル片ハ
之ヲ扁爪ト名ク蹄ヲ具有シタルモノニ在テハ

歩行スルニ當リ通常唯指尖ノミヲ用キ鈎爪或
ハ扁爪ヲ有シタルモノハ全足指或ハ蹠部ヲ以
テス或ハ又々其爪曲リテ地ニ觸レザルモノア
リ之レヲ曲爪ト名ク足拇ノ他指ヨリ多ク距リ

之レヲ養育スル脊椎動物ノ總稱ナリ此動物ハ
脊椎動物中ノ最良完備セル器官ヲ有スルモノ
ニシテ人種ニ最モ能ク類似スルモノナリ生活
上ヨリ之レヲ見レハ其外現象ニ大差アリ例ヘ
ハ蝙蝠、象、鯨等ニ於テ明了ナルガ如シ又々外型
上ニ付テハ表皮上ニ角様物ノ分歧セルモノ即
チ羽毛ノ缺乏スルアリ或ハ單一ナル角様系ノ
現存スルアリ以テ著明ナリトス此角様系ハ或
ハ毛髮ナルアリ粗毛ナルアリ或ハ刺ナルアリ
全体ノ裸ナルハ甚ク稀ナレモ各單一部分ニ
在テハ多シトナス肢部ノ形狀ハ全ク生活ノ方
法ニ關ハルモノニシテ或ハ翼或ハ鱗或ハ脚ナ
リ如此キモノハ主モニ体皮ヨリ被包サレ多少
胴部中ニ箱入ス其他ハ多ク体外ニ顯ハル、モ
ノナリ足指ノ被服ハ緊要ナル特徴ヲ示スモノ
ニシテ今マ角様体ノ足指關節ヲ全ク包ム片ハ
之レヲ蹄ト名ケ唯々上面ニノミ止リテ前方ニ
曲垂シ多少銳尖ヲナス片ハ鈎爪ト稱シ又々爪
部節ノ背部ニ於テ扁キ角様板ヲ型成スル片ハ
之ヲ扁爪ト名ク蹄ヲ具有シタルモノニ在テハ

歩行スルニ當リ通常唯指尖ノミヲ用キ鈎爪或
ハ扁爪ヲ有シタルモノハ全足指或ハ蹠部ヲ以
テス或ハ又々其爪曲リテ地ニ觸レザルモノア
リ之レヲ曲爪ト名ク足拇ノ他指ヨリ多ク距リ

テ恰モ釘板ノ腕ヲ型成スルモノ

ニシテ今マ角様体ノ足指關節ヲ全ク包ム片ハ
之レヲ蹄ト名ケ唯々上面ニノミ止リテ前方ニ
曲垂シ多少銳尖ヲナス片ハ鈎爪ト稱シ又ク爪
部節ノ背部ニ於テ扁キ角様板ヲ型成スル片ハ
之ヲ扁爪ト名ク蹄ヲ具有シタルモノニ在テハ

歩行スルニ當リ通常唯指尖ノミヲ用キ鈎爪或
ハ扁爪ヲ有シタルモノハ全足指或ハ蹠部ヲ以
テス或ハ又タ其爪曲リテ地ニ觸レザルモノア
リ之レヲ曲爪ト名ク足拇ノ他指ヨリ多ク距リ
テ恰モ釘抜ノ腕ヲ型成スル如ク對立スル片ハ
此指ヲ手部ト名ケ拇指ヲ足部ト名ス
髑髏ハ後頭部ニ二箇ノ關節頭ヲ有ス此頭ハ第
一頸椎ノ關節腔中ニ合入ス髑髏ノ各部分ハ齒
狀縫際ニ依テ結合スルモノトス但シ此縫際ハ
動物ノ加齡間ニ多少消失スルモノナリ頸部ハ
正ニ七箇ノ頸椎ヨリ成立ス薦骨ハ密ニ結合シ
タル僅少ノ脊椎ヨリ造構シ閉鎖セル骨盤輪ヲ
載クモノナリ尾閭脊椎ノ數ハ不定ニシテ三乃
至四十以上ニ止ルモノナリ鎖骨ハ存在スルア
リ或ハ缺乏スルアリ
齒牙ハ顎ノ齒槽中ニ竄入スルモノニシテ象牙
質及珐瑯質ヨリ成立ツ甲ハ氣孔性ノ骨様質ニ
シテ乙ハ緻密光澤アル珐瑯質ナリ此質ハ種々
ノ法ニテ齒牙ヲ構造ス之レニ依テ珐瑯突起形
珐瑯皺形及珐瑯板形齒ノ名アリ又ク齒頭ノ構

造ニ從ヒ銳鈍或ハ扁ノ別アリ而シテ此形狀及
ヒ造構ニ從ヒ其哺乳者ノ性質及ヒ生活法ヲ説
明スルヲ得ヘシ故ニ此性質ハ類屬ヲ區別スル
ニ當リ大ニ便益ヲ與フルモノナリ齒ヲ發生處
ニ從テ區別スレバ門齒犬齒及臼齒ノ三トス甲
ハ中顎ニ丙ハ顎體ニ乙ハ兩接間ニ發生スルモ
ノナリ齒列ニ間隙アルキハ之レヲ齒隙ト稱ス
通常ノ前臼齒ハ動モスレバ缺損スルノ傾キア
リ故ニ缺齒ト名ク
神経系統ハ腦ノ大ナルト諸哺乳動物ノ表面ニ
顯出スル彎曲物トニ依テ著明ナリトス總官機
ハ稍々等一ニ型成スルモノニシテ鼻孔ハ分レ
テ后方ニ向ヒ口腔中ニ開口ス眼ハ大上瞼及小
下瞼ヲ有シ聽官ハ膜狀ノ軟骨外官及ヒ頭蓋骨
中ニ屈曲セル内官ヨリ成立ツ此兩聽官ハ外聽
道及内聽道ヲ區分スル一ノ横膜即チ鼓膜ニ依
テ互ニ分割セラレ味官ハ舌ニアリ觸官ハ軟カ
ニシテ神經ニ富メル皮膚ノ部分ニアリトス故
ニ唇指尖等皆ナ然リ
胸部ハ横隔膜ニ依テ胸腔及腹腔ノ二部ニ分ル

横隔膜トハ横ニ緊張シタル膜狀ノ筋ニシテ食
管ヲ通過セシムルモノナリ胸腔ハ肺臟及心臟
ニ房及ヒニ前房ヲ包藏シ胃腸管消化助器腎臟
ヨリ成立ツモノヲ包藏シ膀胱及繁殖器ハ腹腔中ニ存在ス腸管尿管尿器及生
殖器ハ殆ント皆ナ各別ノ管ヲ有スレモ甚夕稀

テ互ニ分割セラル味官ハ舌ニアリ觸官ハ軟カ
ニシテ神經ニ富メル皮膚ノ部分ニアリトス故
ニ唇指尖等皆ナ然リ
胴部ハ横隔膜ニ依テ胸腔及腹腔ノ二部ニ分ル

横隔膜トハ横ニ緊張シタル膜狀ノ筋ニシテ食
管ヲ通過セシムルモノナリ胸腔ハ肺臟及心臟
ニ房及ヒニ前房ヲ包藏シ胃腸管消化助器腎臟
ヨリ成立ツモノノ
膀胱及繁殖器ハ腹腔中ニ存在ス腸管尿管及生
殖器ハ殆ント皆ナ各別ノ管ヲ有スレト甚タ稀
レニ一管ヲ以テ兼ルモノアリ所謂コロアーケ
尿道ナルモノ是レナリ

乳房ハ其位置一定セス胸ニ腹ニ脇腹ニ胸ノ兩
側ニ或ハ腹部ニ沿フテ存スルモノニシテ多分
ハ体ヨリ游離シ裸体ニテ現存スレト稀レニハ
一ノ囊狀体ヨリ被包サル、トアリ乳房ハ兩性
共ニ現存スレト唯女性ニ於テノミ其目的ヲ知
ルヲ得ベシ其數ハ兒ノ數ニ比例ス

哺乳動物ノ年齡ハ其大小ト比較スルヲ得ベシ
即チ鼠ハ僅カノ年ヲ越ヘ象ハ百年ヲ越ヘテ生
活スルガ如シ凡テ壽命永キニ從テ愈々其兒ノ
發育時久シキモノトス

哺乳動物ノ住所ハ地球表面上ノ分配ノ如ク甚
タ種々ニシテ其過半ハ陸上生活ト定ムルモ其
一二ハ或ハ地中ニ生活シ或ハ樹上ニ登ルアリ

或ハ空中ニ飛ブアリ其他主ニ或ハ常ニ水中ニ
生活スルモノアリ寒帶温帶ニ棲ム多クノ動物
ハ冬期ニ向ヘハ冬蟄シテ生活力消化呼吸循環
ハ唯々僅ニ存スベシ此故ニ動物ハ常ニ隱所ヲ
探求シ其全期ノ間ハ脂肪ヨリ生育シ能ク肥大
スルモ既ニ冬蟄シテ瘦セ衰ヘ覺眠スルナリ
地球表面ノ大小ニ從テ馴不馴ナル動物ノ地勢
及地帶ノ異ナルニ依テ如何ナル變型ヲ受クル
乎ハ次ノ例ニテ明カナリトス即チ「アウスト
リヤ州ニ於テハ殊ニ有囊動物有嘴動物及「アマ
イセンフレツセル」カ棲ミ亞非利加州ニ於テハ
河馬^{ホシバシ}犀^{サイ}豹^{パンテロン}ノ一種鬣^{マニ}豹^{パンテロン}長毛豹^{マニ}及^{マニ}羚羊^{マニ}ノ如キ他種
ノ哺乳動物ノ生活スルガ如シ
土中ヨリ掘出シタル古昔ノ哺乳動物ノ殘物ハ
「ユラフォルマチオン」^{石層}ヨリ成立スル有囊動物
ノ破塊ナリ此動物ノ綱ハ第三綱ニ至テ初メテ
無數ニ變化ヲ生シタリキ最初ハ尚ホ今日生活
スルモノヨリ著シク差違アル形狀ニ依テ然リ
トス
諸動物中ニ於テ哺乳動物ハ人間ニ最大ナル要

用ヲ與フルモノニシテ即チ人間ノ爲メニ衣食
ヲ産シ所有品ヲ守リ旅行獵ニ導キ或ハ荷物ヲ
引キ及ヒ擔ヒ醫藥ヲ與ユル等ナリ他ノ動物ニ
在テハ人間ヲシテ危害ニ逢ハシメ非常ナル増
殖ニ依テ有害ヲナスモノナリ如此キ人間ト此
動物綱トノ間ニ生スル關係ヨリシテ動物ヲ甚

スルモノヨリ著シク差違アル形狀ニ依テ然リ
トス

諸動物中ニ於テ哺乳動物ハ人間ニ最大ナル要

用ヲ與フルモノニシテ即チ人間ノ爲メニ衣食
ヲ産シ所有品ヲ守リ旅行獵ニ導キ或ハ荷物ヲ
引キ及ヒ擔ヒ醫藥ヲ與ユル等ナリ他ノ動物ニ
在テハ人間ヲシテ危害ニ逢ハシメ非常ナル増
殖ニ依テ有害ヲナスモノナリ如此キ人間ト此
動物綱トノ間ニ生スル關係ヨリシテ動物ヲ甚
タ有益ノモノトシ將タ人間ヲシテ既ニ古代ニ
於テ動物ヲ學問上ニ能ク研究セシムルニ至レ
リ

肢部ノ性質ニ從テ哺乳動物ヲ區別シ三トナス
即チ有爪哺乳動物、有蹄哺乳動物及有鱗哺乳動
物是レナリ其各一ハ脚ノ精密ナル造構及齒ニ
依テ又タ再ヒ夥多ノ目ニ區分サル、モノナリ
既ニ著明ナル哺乳動物ノ數ハ二千〇六十二及
ブモノトス

(第二) 有爪哺乳動物

各足ニハ四或ハ五ノ指アリテ扁爪或ハ鈎爪ヲ
具フ幼獸ハ不完全ニシテ裸体且ツ屢々盲目ナ
リ肢部ハ諸運動ニ適シ完全ニ發育セリ

第一目 猛獸類

原書第三目

大小及行狀ハ太ク種々ナレモ肢部ハ等シク体ノ造構ハ一致セリ足指ハ鈎爪ヲ有ス三種ノ齒アリテ犬齒ハ圓錐形ニ突出シ前臼齒ハ缺齒ニシテ密接セル尖頭ヲナス此次キニ銳キ尖頭ニシテ内突起ヲ具ヘタル大肉齒アリ其后方ニ一乃至三枚ノ鈍キ大ナル齧齒アリ此三種ノ臼齒發生ハ生活法及性質ト最モ親密ナル關係ヲ有スルモノナリ嚙筋ハ強ク胃ハ單一ニメ腸短シ乳房ハ腹ニ存ス幼獸ハ盲ニシテ生ル高尚ナル官能ヲ有シ氣候ノ如何ヲ問ハス諸方ニ蔓延ス

第一科 犬類

上顎ニ二枚ノ大ナル鈍齧齒ヲ具ヘ下顎ニハ一枚ナリ犬齒ハ強ク壓扁サレリ上ニ三枚下ニ四枚ノ缺齒アリ口先ハ廣ク腹ハ細マレリ足指ヲ以テ歩行シ其鈎爪ハ曲ラズ舌ハ滑ニシテ后足ニハ通常四前足ニハ五指ヲ具フ地球ノ各處ニ蔓延シ決シテ攀ルヲナシ

第一屬 犬

上ニ六枚下ニ七枚ノ臼齒アリ尾ハ中等ノ長サニシテ僅カニ毛ヲ密生シ或ハ全ク密生セズ瞳

孔ハ丸ロシ

(家犬) 全地球上ノ人ニ服従スル尤モ親切ナル

動物ニシテ其種類ハ夥シク性質及生活法モ太ク差違アリ太ク荒カラスト雖モ場所ノ異ナルニ從テ多少荒キニ傾ケリ吼ユルヲハ犬ノ特種

ニハ通常四前足ニハ五指ヲ具ス地球ノ各處ニ
蔓延シ決シテ攀ルヲナシ

第一属 犬

上ニ六枚下ニ七枚ノ臼齒アリ尾ハ中等ノ長サ
ニシテ僅カニ毛ヲ密生シ或ハ全ク密生セズ瞳

孔ハ丸ロシ

(家犬) 全地球上ノ人ニ服従スル尤モ親切ナル
動物ニシテ其種類ハ夥シク性質及生活法モ太
タ差違アリ太タ荒カラスト雖其場所ノ異ナル
ニ從テ多少荒キニ傾ケリ吼ユルハ犬ノ特種
トス其他口先ハ額下ニ強ク扁平トナリ多ク左
方ニ尾ヲ卷キ上ゲ及ビ鼻ハ粒状ヲナシ常ニ濕
ヲ以テ著明ナリトス上顎ニ五乃至六列ノ鬣
ノ口先ニ對スルアリ群ヲナスモノニシテ食物
ヲ探求シ水ヲ飲ムニハ舌ヲ以テ啜リ込ムナリ
今マ其一二種ヲ舉ルハ左ノ如シ

(イ) 風犬 第十八圖

頭ハ長ク壓搾サレ額ハ扁

平ニシテ口先長ク前方ニ細マリ且ツ尖レリ耳
ハ尖リテ半バ直立シ尖端ハ屈曲セリ体ハ延ビ
テ太タ瘦セタリ而シテ脇腹ハ強ク縮マレリ背
ハ曲リ足ハ細長クシテ高シ尾ハ太タ細クシテ
長ク毛ハ短クシテ滑カナリ上ハ帶鳶或ハ帶赤
黄色ニシテ又タ或ハ灰白色ナルアリ茶褐色ナ
ルアリ稀レニ白色モアリ其最初ノ住所ハ案ス
ルニ東國ナラント思ハル走ルハ久シキニ堪ヘ

且ツ速カナリ平地ニ在テ野獸ヲ捕フルニ使役
シ得ヘシ

(口)大狗 第十九圖

頭ハ丸ク額ハ強ク穹窿ヲ

ナシ口先ハ短クシテ太ク鈍シ耳ハ可ナリ長ク
シテ半バ直立シ末端ハ垂レタリ唇ハ長クシテ
著ク垂レ掛レリ全体太トシ毛ハ滑ニシテ短ク
且ツ稍々粗ナリ色ハ通常帶黃茶褐色ナリ口先
端唇及耳端ハ黒シ太ク強勢ナル犬ニシテ屢々
番犬トシテ家ヲ守ラシメ且ツ猛獸例ハ熊ノ
如キモノ
ヲ獵スルニモ之ヲ使用スルヲ得ヘシ他人ニ危
害ヲナスモノナリ

(ハ)曲脚犬 第二十圖

口先ハ可ナリ長ク眼カ

ラ前方ハ遠カニ細マレリ耳ハ甚ク長瀾ニシテ
垂ル足ハ短クシテ太トシ前肢ハ手關節ニ至リ
強ク内方ニ屈セリ右足ニハ一ノ鉤爪ヲ有セル
右方指アリ全体ノ構造ハ馳走ヨリハ堀穿ニ適
セリ故ニ地下ニ生活スル動物ノ探追ニ使用サ
ル、モノナリ

(三)前立犬 第二十一圖

最モ貴重スベキ獵犬種ノ

一ニシテ野獸ヲ探求スルニ使役シ得ベク而シ

テ其野獸ノ前ニ立チ止マルヲ以テ其名ヲ得タ
リ耳ハ長瀾ニシテ垂ル額ハ廣ク鼻モ亦ク然リ
体逞ヲシテ脚ハ中等ノ高サナリ

(ホ)新著大島ノ犬 第二十二圖

新フォンド國ニ於

テノ此種ハ純粹ナルモノニシテ「ライセル」フ

后方持アリ全体ノ構造、馬ニ似テ、探追ニ使用サセリ故ニ地下ニ生活スル動物ノ探追ニ使用サル、モノナリ

(三)前立犬 第二十一圖 最モ貴重スベキ獵犬種ノ一ニシテ野獸ヲ探求スルニ使役シ得ベク而シ

テ其野獸ノ前ニ立チ止マルヲ以テ其名ヲ得タリ耳ハ長濶ニシテ垂ル額ハ廣ク鼻モ亦タ然リ体逞フシテ脚ハ中等ノ高サナリ

(ホ)新著大島ノ犬 第二十二圖 新フォンド國ニ於

テノ此種ハ純粹ナルモノニシテ「フライセルフンド」獸類ヲ殺シテ其ノ大サ及強サニ同シ夫ニ反シテ毛及耳形ハ大水犬グレートノモノニ同シ此種ハ恐ク水犬種ノ混同ヨリ生スルモノナラン頭ハ長濶ニシテ耳ハ房狀ニ毛ヲ生シ垂ル長キ房狀ノ尾ヲ具ヘ足指間ニ游泳膜ヲ有ス毛髮ハ軟カニシテ房狀ヲナセリ多クハ黒色ナレド或ハ黒白混スルアリ或ハ白キモノアリ水中ニハ最モ久シク沈ミ得ルモノニシテ物ヲ取り來ルモノナリ

(狼 第二十三圖) 尤モ恐ル可ク尤モ有害ナル猛

獸ニシテ大サ「ライセルフンド」ニ同シ額ハ扁ク口先ハ長クシテ尖レリ眼ハ馴犬ヨリ多ク互ニ斜向セリ耳ハ短クシテ尖リ直立セリ脚長シ尾ハ稍々密ニ毛ヲ生シ踵關節ニ達スベク或ハ垂レ或ハ后脚間ニ縮卷ス色ハ四季ニ從テ差違

アリ冬ニ於テ上ハ帶黃或ハ帶褐灰白色ニシテ
下ハ帶白灰色ナリ北地ニ在テハ其色遙カニ明
ニ而シテ冬期ニハ全ク白色トナル歐羅巴及亞
細亞ノ溫帶中北地ニ棲フ開化地方ニハ殆ント
其跡ヲ絶セリ双々ヲナシテ生活シ特リ嚴寒ノ
時ノミ群ヲナシ諸動物ヲ襲フ加之餓エタル片
ハ人ヲモ憚カラザルモノニシテ非常ニ困餓ス
ル片ハ苔及木芽ヲ以テ満足セリ

(狐狼 第二十四圖)

体格ハ狼ト犬ノ中間ニ位スル

モノニシテ犬ノ祖種トス頭ハ狐ヨリ短ク額ハ
穹窿ニシテ頬ハ僅ニ漲出セリ狐ヨリ稍々大ニ
シテ銳ク尖リタル直立耳ヲ有ス但シ狐ノモノ
ヨリハ短シ脚ハ狐ヨリ長シ尾ハ踵關節ニ達シ
静止スル片ハ脚間ニ縮メ置ケリ狐ノ如ク毛ハ
密生セズ色ハ住所ニ因リ多少差異アリ西亞細
亞ノ最ニ普通ナルモノ及「カウカズ」ニ現存ス
ルモノハ上面ハ帶鳶或ハ帶灰黃色ニシテ背ニ
ハ暗色ヲ加ヘ下面ハ帶黃白色トス南歐羅巴「モ
レア」タルマチーン等ニ蔓延スルモノニシテ日
中ハ殊ニ山地岩間ニ潛居ス夜ニ至レバ群ヲナ

シ奪物ヲナス成人ニハ害ヲナス「狼」ヨリ稍々
少ナシ

第二屬 狐

尾ハ長クシテ密毛ヲ生シ此上側ノ基ニ一ノ分
泌腺ヲ具フルト瞳孔ノ長キトニ因テ前屬トノ
差別トス

ルモノハ上面ハ帶爲或ハ帶灰黄色ニシテ背ニ
ハ暗色ヲ加ヘ下面ハ帶黄白色トス南歐羅巴^レモ
^レア^レタルマチ^レン^レ等ニ蔓延スルモノニシテ日
中ハ殊ニ山地岩間ニ潛居ス夜ニ至レバ群ヲナ

シ奪物ヲナス成人ニハ害ヲナス^レ狼ヨリ稍々
少ナシ

第二属 狐

尾ハ長クシテ密毛ヲ生シ此上側ノ基ニ一ノ分
泌腺ヲ具フルト瞳孔ノ長キトニ因テ前属トノ
差別トス

(狐 第二十五圖) 狡猾ナル^レ著明ニシテ最^レ有

害ナル歐洲産猛獸ニ属ス額ハ扁平ヲナシ漸々
尖リタル長キ口先トナル耳ハ基トニ廣ク直立
シ尖レリ体ハ密ニ毛ヲ生ジ足ハ短シ尾ハ長ク
シテ密毛ヲ生シ歩ムニ之ヲ引摺レリ上ハ帶錆
或ハ帶黄赤色ニシテ胸腹ハ灰白色ナリ氣候ノ
異ナルニ從テ色モ亦タ差アリ東半球ノ北半球
タル過半部ニ散在シ雙々或ハ隻々ヲナシ自カ
ラ穿堀セル洞穴中ニ住ミ或ハ狸穴中ニ居ル種
々ノ動物ヲ食トシ又タ葡萄果實蜂蜜卵等ヲ喰
フ

第三属 斑色豹

犬類ノ如ク黒ク瞳孔丸シ前足及后足ハ四指ニ
シテ肢部ハ殆ント同長ナリ

(斑色豹 第二十六圖)

犬類ト鬣豹類トノ中間ニ
位スルモノニシテ其形狀長足ノ「フライセル」
ンド」ニ出ヅニ甚ダ類似ス耳ハ大ク甚タ長ク
シテ直立セリ尾ハ細クシテ踵關節ニ達ス其下
半部ハ稍々密ニ毛ヲ生ス哺乳動物ノ最ニ數色
ヲ有スルモノ、一ニシテ白黒黃ノ色斑アリ其
一二ニ在テハ專ラ白ク他ノモノニ在テハ專ラ
黒シ顔ハ眼ニ至ル迄黒ク耳モ亦タ黒シ南及中
亞非利加ノ荒地及砂漠ニ住シ群ヲナス夕景及
夜中ヨリハ多ク日中ニ屢々狼ノ如ク諸動物ヲ
待伏ス羊群ニ大害ヲナセ且困餓ノ時ニ在テハ
亦タ人ヲモ襲フモノナリ

第四屬 鬣豹

前肢ハ后肢ヨリ長シ故ニ背ハ傾ケリ尻ト尾ト
ノ間ニ一ノ腺囊ヲ有ス前足后足共ニ四指ナリ
背ニ直立セル鬣アリ尾ハ短シ臼齒ハ上ニ五枚
下ニ四枚ナリ肉齒ハ大ニシテ強シ各側ニ塊齒
アリ

(斑條鬣豹 第二十七圖) 「フライセル」ノ大

ニ同シ口先ハ黒ク短クシテ且ツ鈍ブシ耳ハ大



Fig 4. Der Tiger oder Korygstiger (Felis Tigris).

第四圖 虎

背ニ直立セル鬣アリ尾ハ短ク
 下ニ四枚ナリ肉齒ハ大ニシテ強シ各側ニ塊齒
 アリ
 (斑條鬣豹 第二十七圖) フライセルフンドノ大
 ニ同シ口先ハ黒ク短クシテ且ツ鈍ブシ耳ハ大

ニシテ尖リ直立ス眼ハ小ニシテ瞳孔ハ長シ体
ハ強靱平サレ鬣部ハ腕部ヨリ高シ后脚ノ短キ
所以ハ其踵關節ノ強ク内方ニ曲レルヲ以テナ
リ毛ハ粗ニシテ頸及背ニ鬣アリ毛皮ハ灰白色
ニシテ黒線アリ舌ハ尖端ニ至テ粗糙トナル亞
非利加ノ北部及亞細亞ノ西部ニ於ケル山洞或
ハ自ラ堀穿セル穴中ニ棲ムモノニシテ各地方
ニハ甚タ夥シク存スレニ常ニ静寂ナリ真ノ夜
獸ニシテ憶病ナレニ偽計ヲナス、滋養物ノ一部
ハ生活セル哺乳動物例ハ山羊羊等ノ如キ是
レナリ然レニ腐肉ヲ以テ主トス困餓ニ當リテ
ハ獸皮根芽等ヲ食トシ又タ埋ミタル死体ヲ土
中ヨリ掘出ス而シテ墓所ニ入り來ルモノナリ
捕ヘラレタルモノハ夜中ハ眠リ日中ハ其籠中
ニ廻行ス古代ハ小説中ニ此動物ニ付テ種々ノ
記事アレニ近來經驗シテ其妄説ヲ退ケタリ

第二科 猫類

此科ノ動物ハ最ニ殘酷ナルモノニシテ銳齒ヲ
有ス而シテ門齒ハ甚タ小ク大齒ハ強クシテ突
出シ缺齒ハ二枚ニシテ銳ク肉齒ハ一枚ニシテ

甚ク銳キ尖頭ヲ具フ此肉齒ノ后方ニ小キ粒齒アリ但シ特リ上顎ノミニシテ下顎ニ欠ケリ其他頭ハ丸ク耳ハ直立シ粗糙ナル舌アリ鈎爪ハ銳クシテ足指第二關節ニアル角鞘中ニ縮入スベク尾ハ長クシテ引摺レリ体ノ各部ハ凡テ強筋肉ヲ備フ前足ハ五指、后足四指ナリ歐羅巴、亞細亞、亞非利加及亞米利加ノ平地及山地ニ居リ森中並ニ蘆多キ河沼ノ岸其他高山ノ岩地及地下ニ棲ムモノナリ概シテ皆ナ夜獸ニシテ群ヲナサス奪物ヲ覘ヒ或ハ此レニ忍ビ寄リテ擲ムモノナリ幼獸ハ捕ヘテ馴スヲ得ベク毛皮ヲ産シ及一二種ノ肉ハ食用トナルナリ

第一屬 獅子

尾ハ長クシテ端ハ總狀ヲナシ爪ヲ具フ耳ニ毛房ナク牡ハ頭頸ニ鬣アリテ瞳孔ハ丸ルシ

(獅子 第一圖)

猛獸中ノ最ニ強勢ナルモノ

ニシテ高慢然トシテ大膽ナルヲ以テ動物ノ王ト稱セラレ尊重ラシク常ニ頭ヲ高メリ頭ハ殆ント四角形ニシテ口先鈍シ胸ハ廣クシテ后体ヨリ前体ヲ強壯ニナセリ一色ニシテ帶赤黃色

ナリ或ハ背ニ濃ク茶褐色アルアリ住所ハ亞非利加ノ全北部ヨリ南方ノ砂漠ニ至ル但シ南方ニ近ツクニ從ヒ愈々其數ヲ減ス亞細亞殊ニペルシヤニハ一種他ノモノアリ山地平地及砂漠

ニ住ニ水邊ヲ愛ス

ニシテ高慢然トシテ大膽ナルヲ以テ動物ノ王ト称セラレ尊重ラシク常ニ頭ヲ高メリ頭ハ殆ント四角形ニシテ口先鈍シ胸ハ廣クシテ右体ヨリ前体ヲ強壯ニナセリ一色ニシテ帶赤黄色

ナリ或ハ背ニ濃ク茶褐色アルアリ住所ハ亞非利加ノ全北部ヨリ南方ノ砂漠ニ至ル但シ南方ニ近ツクニ從ヒ愈々其數ヲ減ス亞細亞殊ニベルシヤニハ一種他ノモノアリ山地平地及砂漠ニ住ミ水邊ヲ愛ス雙々ヲナシ或ハ單隻ニテ生活ス日中ハ主モニ隱所ニ在リ人ヲ殺スハ唯々饑渴ヲ防クノミナリ奪物ヲスルニ當リ僅カニシテ之ヲ擱ミ損フキハ放棄シテ再ビ省ミズ其力強クシテ足爪ニテ打ツモ以テ大動物ヲ倒スニ足ル人ヲ襲フハ餓エタルカ或ハ怒レル時ノミニアリ人之ヲ防クニハ勇氣ヲ示スノ一法アルノミ逃レントスル者ハ反テ終ニ生命ヲ失フモノナリ

第二属 猫

尾端ハ總狀ヲナシ牝牡共ニ鬣ナシ

(アメリカ獅 第二圖)

亞米利加ノ猛獸ニシ

テ頭ハ小圓ニシテ上唇及眼上ニ強キ粗毛アリ体ハ細長シ上ハ帶黄赤色ニシテ下ハ帶赤白色ナリ胸ハ明カニシテ咽喉白ク耳及尾端ハ共ニ黒シ全南亞米利加及北亞米利加ノ合衆國ニ棲

メリ單雙ヲナシテ森中ニ居リ高山中へ逡巡シ
到ルモノナリ小キ及中等大ノ羊ノ大サノ哺乳動
物ヲ襲フ而シテ攀ル₁太夕巧ミナリ非常ニ殘
酷ニシテ喰へ得ルヨリモ尚多キ動物ヲ殺シ殊
ニ家畜ニ大害ヲナス僅カ一夜中ニ五十疋ノ羊
ヲ縊殺シ得ルト云フ如此キ時ハ唯其血液ヲ吸
フニ止ルノミ此恐憶スル猫種ハ人ヲ襲フ₁ナ
シ譬へ眠リタル者モ亦夕然リ幼時ニ捕へテ容
易ク馴スヲ得ベク其肉ハ南亞米利加ニ在テモ
西班牙人ヨリ好ミ食サル、モノナリ

(虎 第三圖)

此獸ハ亞米利加産ノモノ、如
ク殘酷荒暴ナル₁獅子ノ上ニ出ヅ頭ハ短圓ニ
シテ脚ハ強クシテ稍々短シ体ハ細長ク大サ獅
子ニ同シキモ遙カニ長シ尾ハ長ク上面ハ帶赤
黄色下面ハ白色ナリ背ヨリ下面ニ不規則ノ黒
キ横辨アリ尾ハ周スニ黒輪ヲ以テス住處ハ亞
細亞中ノ熱帶部及溫帶部ニシテ南ハ「スマトラ」
ニ至リ北ハ「ジヒリオン」ノ南部ニ至ル而シテ大
森及蘆多キ河岸ニ單隻ヲナシ夜中ニ限ラズ每
時遠キニ到リテ奪物ヲナス若シ奪物ニ忍ビ寄

ル₁ハ其距リ僅カニ至テ矢ノ如ク速ニ飛ビ掛
リ強キ鈎爪ヲ其項中ニ刺入シ以テ最大動物ヲ
モ倒スニ至ル好シテ血液ヲ飲メ亦夕肉モ放
置セス此動物ノ多キ場所ニ在テハ人畜ニ大ナ
ル災ヲ醸スベシ夜中ニ在テ此動物ノ近寄ルヲ

キ横辨アリ尾ハ周スニ黒輪ヲ以テス住處ハ亞細亞中ノ熱帶部及温帶部ニシテ南ハ「スマトラ」ニ至リ北ハ「ヒリ」ノ南部ニ至ル而シテ大森及蘆多キ河岸ニ單隻ヲナシ夜中ニ限ラズ毎時遠キニ到リテ奪物ヲナス若シ奪物ニ忍ビ寄

ルハ其距リ僅カニ至テ矢ノ如ク速ニ飛ビ掛リ強キ鈎爪ヲ其項中ニ刺入シ以テ最大動物ヲモ倒スニ至ル好シデ血液ヲ飲メ亦タ肉モ放置セス此動物ノ多キ場所ニ在テハ人畜ニ大ナル災ヲ醸スベシ夜中ニ在テ此動物ノ近寄ルヲ防クニハ火及叫聲ヲ以テスルノ一法アルノミ是レ旅人ノ心得ベキナリ危難ニ際スルハ僅カニ勇氣ヲ顯ハシ強ク之レヲ追ハバ從テ逃ケ走レモ若シ餓モセズ負傷モセザルハ於テハ反テ強ク荒クナルモノナリ通常之ヲ獵スルニハ能ク習熟セル象ヲ使用ス印度諸侯ノ行フ大狩ニハ二万以上ノ人之ニ加ハリ或ハ騎士アリ或ハ歩士アリ諸多ノ地方ニ在テハ既ニ充分此種ヲ盡シ絶セリ

虎猫 第四圖

体ノ造構逞シキ猫ニシテ短

毛密生シ亞米利加中ノ尤モ恐ル可ク最モ大ナル猛獸ニシテ大サ稍々虎ニ劣レリ頭ハ大圓ニシテ口先鋭ク尾ハ長クシテ恰モ地ニ觸ル、カ如レ原色ハ上下共虎ニ等シ然レモ全身ニ大ニシテ黒ク及輪狀ノ小キ班紋アリ其内部ニ一或

ハ二ノ所謂眼紋ナルモノアリ南亞米利加及
キシコニ棲ミ以前ハ當時ヨリ遙カニ多ク存在
セリ熱キ森端及河沼ノ邊リニ單隻ヲナシテ居
リ攀リ且ツ泳ク一巧ミナリ唯々夜中ノミ奪物
ヲナス水獸及陸獸ハ共ニ捕ヘ血液ヨリ肉ヲ愛
ス故ニ通常ハ其動物ヲ一度ニシテ殺スニ至ル
魚ヲ捕フルニハ前足ヲ以テ岸ニ投ゲ打チ喰フ
亦タ人ニ危害ヲナス

(白豹 第五圖)

前種ヨリ小ク且ツ細長ク頭
ハ短圓ニシテ脚長シ耳ハ太ク短ク体ハ延長セ
リ尾ハ長クシテ細ク上面ハ帶鳶黃色下面ハ白
色ナリ脇ニ三乃至四斑点ヨリ型成スル輪狀ノ
班紋アリ但シ横列ノ中紋ナシ頭及背骨ニ沿フ
テ夥多ノ黑色小紋アリ此種ハ中及北亞非利加
産ノ「バンテール」(豹ノ一種)及「シング」諸島産ノ長尾
「バンテール」ト區別シ難キモノニシテ稍々小ニシ
テ足モ短ク班紋モ亦タ密接セリ亞非利加ノ南
及西部ニ居リ平地森中ニ棲ミ攀ル一太ク巧ミ
ナリ人ヲ恐レテ襲フ一太ク稀レナリ其性質ハ
爾他ノ大猫ニ等シ

(赤豹 第六圖)

其体ハ細長ク大サ毫耳野猫ニ

同シク高足ニテ立チ圓頭ハ短廣ナル耳ヲ備フ
尾ノ長サハ体ノ半バニ同シク地上ヲ接セズ原

色ハ上ニ帶褐灰白色或ハ帶黃灰白色ニシテ下

ハ二ノ所謂眼紋ナルモノアリ南亞米利加及メ
キシコニ棲ミ以前ハ當時ヨリ遙カニ多ク存在
セリ熱キ森端及河沼ノ邊リニ單隻ヲナシテ居
リ攀リ且ツ泳ク一巧ミナリ唯々夜中ノミ奪物
ヲナス水獸及陸獸ハ共ニ捕ヘ血液ヨリ肉ヲ愛
ス故ニ通常ハ其動物ヲ一度ニシテ殺スニ至ル
魚ヲ捕フルニハ前足ヲ以テ岸ニ投ゲ打チ喰フ
亦タ人ニ危害ヲナス

(白豹 第五圖)

前種ヨリ小ク且ツ細長ク頭
ハ短圓ニシテ脚長シ耳ハ太ク短ク体ハ延長セ
リ尾ハ長クシテ細ク上面ハ帶蒼黃色下面ハ白
色ナリ脇ニ三乃至四斑点ヨリ型成スル輪狀ノ
班紋アリ但シ横列ノ中紋ナシ頭及背骨ニ沿フ
テ夥多ノ黒色小紋アリ此種ハ中及北亞非利加
産ノ「バンテル」(豹ノ一種)及「スング」諸島産ノ長尾
「バンテルト」區別シ難キモノニシテ稍々小ニシ
テ足モ短ク班紋モ亦タ密接セリ亞非利加ノ南
及西部ニ居リ平地森中ニ棲ミ攀ル一太ク巧ミ
ナリ人ヲ恐レテ襲フ一太ク稀レナリ其性質ハ
爾他ノ大猫ニ等シ

(赤豹 第六圖)

其体ハ細長ク大サ毫耳野猫ニ
同シク高足ニテ立チ圓頭ハ短廣ナル耳ヲ備フ
尾ノ長サハ体ノ半バニ同シク地上ヲ接セバ原
色ハ上ニ帶褐灰白色或ハ帶黃灰白色

テ足モ短ク班紋モ亦タ密接セリ亞非利加ノ南
及西部ニ居リ平地森中ニ棲ミ攀ル_レ太ク巧ミ
ナリ人ヲ恐レテ襲_フ太ク稀レナリ其性質ハ
爾他ノ大猫ニ等シ

(赤豹 第六圖)

其体ハ細長ク大サ毫耳野猫ニ

同シク高足ニテ立テ圓頭ハ短廣ナル耳ヲ備_フ
尾ノ長サハ体ノ半バニ同シク地上ヲ接セズ原
色ハ上ニ帶褐灰白色或ハ帶黃灰白色ニシテ下
ハ白シ顔ニ小キ黒点アリ項ニ四條ノ黒縁アル
縦紐アリ背ニ沿_フテモ亦タ細長キ黒紋ノ一列
アリ脇ニハ黒縁アル廣キ紐狀紋ノ縦列數行ア
リ全中亞米利加ニ棲ムモノニシテ_ラジリ
_レ及合衆國ニ迄テ蔓延シ而シテ森中ニ居レリ
夜獸ニシテ雙々宛生活シ嫌ハシク攀ル_レ巧ミ
ニシテ小キ哺乳動物鳥類ヲ覘ヒ血ヲ好ム_レ甚
シカラズ養_フニ甚タ馴レ易スシ所々ニ其肉ヲ
食用トス

(豹猫 第七圖)

頭ハ稍々長ク脛平シ耳ハ可

ナリ大ニシテ尖レリ尾ハ踵關節ニ達ス全形ハ
毫耳野猫ニ類スレ_レ耳ニ毛總ヲ具備スル_レナ
シ上ハ或ハ黃色或ハ暗或ハ明ニシテ下ハ白色
ナリ顛頂及頸上ニ四條ノ黒紐アリ肩ヨリ下方
ニ向_フモノニシテ他ノ四條是レヨリ背上ニ至
リ尾ニ向_フ但シ間缺アルモノトス爾他ノ部分

ハ大黒紋ヲ具ヘリ尾ハ上面黒クシテ輪形アリ
端モ亦夕黒シ体長ハ一「フ」ス「十」ツ「オ」ルニシテ
南亞非利加ノ暖キ平地ノ森中ニ棲ミ羚羊兔及
雞ヲ以テ食トナス飼フニ家猫ト甚タ類似セリ
高價ナル毛皮物ヲ産ス

第三属 野猫

尾ニ總ナク耳ニ毛房ナシ瞳孔ハ隋圓形ニシテ
鬣ナシ

(野猫 第八圖)

飼猫ヨリハ大ク且ツ強シ但

シ尾ハ稍々短シ太サ全ク同シ而シテ密ニ毛ヲ
生ス原色ハ灰白色或ハ帶黒灰白色ナリ牝ハ帶
黄灰白色ナリ背ニ黒色ノ中線アリ此線ヨリ兩
側ニ向フテ不明ナル暗色横線ヲ出ス脇腹ハ稍
々黄色ヲ帶ビ一二ノ黒紋アリ歐羅巴及亞細亞
ノ中帶ニ住ス獨乙國ニ在テハ種々ノ法ヲ用キ
テ既ニ之ヲ絶種セリ大森殊ニ針葉樹森中ニ棲
ミ日中ハ岩間地下等ニ隠レ夜ニ入りテ奪物ヲ
ナスモノナリ鼠土龍鳥家兔幼兔等ヲ以テ食ト
シ而シテ小キ野獸ニ大害ヲナスモノナリ善良
ナル毛皮ヲ産シ捕ユルモ全ク決シテ馴ル、

ナシ

(家猫 第九圖)

野猫ヨリハ小ニシテ細長キ

体ヲ具ヘ尾ハ長ク末端ニ至ルニ從テ漸次ニ細

小トナル最寒也

テ既ニ之ヲ絶種セリ大森殊ニ針葉樹森中ニ棲
ミ日中ハ岩間地下等ニ隠レ夜ニ入りテ奪物ヲ
ナスモノナリ鼠土龍鳥家兔幼兔等ヲ以テ食ト
シ而シテ小キ野獸ニ大害ヲナスモノナリ善良
ナル毛皮ヲ産シ捕ユルモ全ク決シテ馴ル、

ナシ

(家猫 第九圖)

野猫ヨリハ小ニシテ細長キ

体ヲ具ヘ尾ハ長ク末端ニ至ルニ從テ漸次ニ細
小トナル最寒地ヲ除クノ他ハ全地球上ニ蔓延
シ既ニ古キ「イギブ」人モ家畜トナセリ西班牙
人ハ初メテ之ヲ亞米利加ニ送レリ人ニ馴從ス
ル猫ノ特種トス冬寒ニ堪エ難キヲ以テ初ノ暖
地ヨリ分レ且ツ野猫ト別種ナルヲ證スルニ足
ル攀ル、巧ミニシテ小鳥及小鼠ヲ最愛ノ食物
トナス然レモ人食ヲ以テ飼ハレ好テ牛乳ヲ飲
ム太々清淨ナル動物ニシテ人ヨリハ殊ニ多ク
其住家ヲ慕フモノトス樂ム所ハ親氣ヲ發ハシ
咽喉ニ鳴聲ヲ起スヲ以テ知ルベク貪食ニシテ
惡シク強キ香氣ヲ有スル植物ヲ愛ス
家猫ノ其形狀ヲ異ニスルモノ多ク然レモ犬ニ
於ケル如ク甚ク差違アル、

第四屬 狩豹

尾ニ總ナク瞳孔丸ロシ耳ハ毛房ヲ具ヘズシテ
鈎爪ハ縮ム、充分ナラズ頂ニ直立セル鬣アリ
(狩豹 第十圖) 其形豹ニ類シテ細長ク且ツ

長脚ニシテ大サ亦夕之ニ同シ尾ハ長ク細ク耳ハ短クシテ丸クナレリ密ニ毛ヲ生シ帯灰黃色ナリ全上面及外面ニ夥多ノ密接セル紋班アリ下面ハ白クシテ班紋ナシトス中及南亞非利加ノ高山殊ニ森中ニ棲メリ猿及羚羊ヲ喰フ甚タ良ク攀リ概シテ可ナリ溫和ナル動物ニシテ直ニ人ニ馴ル、モノナリ之ヲ羚羊狩ニ使用スルヲ得ベシ

第五屬 毫耳野猫

尾ハ長カフズ或ハ太夕短ク總ナレ鈎爪ハ縮入スベクシテ鬣ナシ瞳孔隋圓形ニシテ耳ハ毛房ヲ具フ

(毫耳野猫 第十一圖)

頭ハ稍々丸ク口先僅カニ延ヒタリ眼ハ大ニシテ尾ハ圓柱狀ヲナン頭長ニ同ジ其長サ三「フ」スナリ帶錆紅色ニシテ不著明ナル暗色斑紋アリ下面ハ白シ耳ハ黒キ毛筆ニ依テ著明ナリ尾ハ末端ニ至テ黒シ歐羅巴ノ中帶地及北地又タ「ジ」ビリ「ン」ニ居ル既ニ多クノ地方ヨリ驅出サレ唯山森洞窟中ニ現在スルモノナリ善ク攀リ殊ニ野獸ヲ奪ヒ喰ヒ得

ルヨリハ尚ホ多クノ動物ヲ猛殺シ以テ大害ヲナス日中ハ靜坐ス皮ハ貴キ毛皮ヲ産スルヲ以テ著明ナリトス

第三科 靈猫類

不著明ナル暗色斑紋アリ下面ハ白シ耳ハ黒キ
毛筆ニ依テ著明ナリ尾ハ末端ニ至テ黒シ歐羅
巴ノ中帶地及北地又タ「ジビリオン」ニ居ル既ニ
多クノ地方ヨリ驅出サレ唯山森洞窟中ニ現在
スルモノナリ善ク攀リ殊ニ野獸ヲ奪ヒ喰ヒ得

ルヨリハ尚ホ多クノ動物ヲ縊殺シ以テ大害ヲ
ナス日中ハ靜坐ス皮ハ貴キ毛皮ヲ産スルヲ以
テ著明ナリトス

第三科 靈猫類

体ハ小ク延長シ脚低ク尾ハ長クシテ引摺レリ
鈎爪ハ半バ縮入ス尻ニ一ノ腺囊アリテ麝香ヲ
産ス粒齒ハ上ニ二枚下ニ一枚ナリ多クハ夜獸
ニシテ攀ル巧ミナリ日中ハ隱所ニ眠ル小哺乳
動物鳥卵匍匐獸及無血虫ヲ喰ヒ餓エタルキ
ハ果實ヲモ喰フ住處ハ至モニ亞非利加及亞細
亞ニ限ルベシ幼時ニ捕ヘ飼ヘバ通常ハ甚タ能
ク馴ル、モノナリ

第一屬 靈猫

体ハ延長シテ細長シ足指ハ長クシテ游離セリ
前足後足共ニ五指ニシテ蹠部ニ毛アリ足指ニ
テ歩行スルモノニシテ瞳孔ハ丸口ニ

(アフリカ靈猫 第十二圖)

猫種ノ如ク見ユル

モノニシテ口先稍々穹窿ヲナシ鈍尖ナリ舌ハ
粗糙ニシテ眼ハ斜立セリ麝香ヲ産ス頸背ニ直
立セル長毛アリテ体ハ灰白色ニシテ無數ノ角

アル或ハ丸キ黒褐色斑紋ヲ具フ長尾ハ六乃至七ノ黒輪ヲ有シ黒褐色ノ尖端ニ終レリ体長ハ二「フース」三「ツ」オ「ル」ナリ亞非利加中ノ上及下グイ子ア「ニ」棲リ當時ハ亞非利加中ノ數他ノ地方ニ於テ馴ラシ養ヘリ夜中小キ哺乳動物及鳥ヲ奪取ス

(靈猫 第十三圖)

前種ヨリハ頭尖リ耳長ク体ハ瘦セテ尾ハ長シ背鬣無シ帶褐黃色ニシテ背上ニ黒線アリ上身ニハ帶暗褐色ノ斑紋アリ頂ニ黒キ縦線アリ体長ハ二「フース」五「ツ」オ「ル」ナリ東印度ニ棲ムモノニシテ麝香ヲ産スルヲ以テ亦タ同シク屢々馴ラシ飼ヘリ

第二屬 斑縵靈猫

瞳孔ノ長キト足蹠ノ一部分裸体ナルトニ依テ殊ニ前屬ト區別スベシ

(斑縵靈猫 第十四圖)

貂鼠ノ大サニ同シク口先ハ可ナリ長クシテ尖レリ尾ハ体ノ長サニ殆ント同シ上面ハ明灰白色ニシテ稍々黃色ヲ帯ビタリ体ノ側ニ四乃至五列ノ黒紋アリ頸ノ上側ニ四條ノ縦線アリ尾ノ周リニ十六ノ黒クシ

テ稍々白色ヲ帯ビタル輪アリ亞非利加、西班牙及佛國ノ南部ニ棲ムモノニシテ或ハ岩間ニ或ハ樹洞中ニ居ルモノナリ夜獸ニシテ馴レ易ス

殊ニ前屬ト區別スベシ

(斑縹靈猫 第十四圖)

貂鼠ノ大サニ同シク口

先ハ可ナリ長クシテ尖レリ尾ハ体ノ長サニ殆
ント同シ上面ハ明灰白色ニシテ稍々黄色ヲ帶
ビタリ体ノ側ニ四乃至五列ノ黒紋アリ頸ノ上
側ニ四條ノ縦線アリ尾ノ周リニ十六ノ黒クシ

テ稍々白色ヲ帶ビタル輪アリ亞非利加、西班牙
及佛國ノ南部ニ棲ムモノニシテ或ハ岩間ニ或
ハ樹洞中ニ居ルモノナリ夜獸ニシテ馴レ易ス
ク鼠及鼬ヲ盡スカ爲ニ屢々飼ル、ヲ見ル麝香
ノ真氣アル毛皮物ヲ産ス

第三屬 猫鼬

足指ハ短膜ニ由テ互ニ結合シ足蹠ハ殆ント裸
体ニシテ耳小ナリ

(猫鼬 第十五圖)

大サハ飼猫ニ同シク形狀ハ

鼬ニ等シ足蹠ハ裸体ニシテ半バ縮入スヘキ鈎
爪ヲ具フ尾ハ長クシテ筆狀ノ毛房ニ終リ直延
シテ保持ス帶黄灰白色ニシテ黒色ヲ混ゼリ尾
總ハ黒ロシ亞非利加ノ北部タル河邊ノ濕地及
ヒ地洞中ニ棲ム晝夜奪物ヲトス水陸動物鱉卵
鳥ヲ常食トス甚タ嫌ハシク恐ル可キ動物ニシ
テ飛ンテ奪物ヲ擲ム前屬ノ如ク屢々家ニ飼ハ
ル

第四屬 卷尾猫

尻部ニ腺囊ナシ足指ハ短膜ニ依テ結合シ全蹠
ヲ以テ歩行ス蹠ノ一部ハ毛ヲ生シ卷尾ヲ具ヘ

瞳孔稍々長シ

(卷尾猫 第十六圖)

麝香猫ノ形ナニシテ飼猫ヨ

リ稍々大ナリ口先ハ甚ダ延長シテ尖レリ尾ハ
下方ニ向テ螺旋狀ニ轉卷スベク体ハ帶黃黑色
ニシテ頭ハ黒ク眼ノ近傍ニ白キ二紋アリ背骨
ノ兩側ニ縦テニ三列ノ黒紋ヲ具フ印度ノ森中
殊ニ村落ノ近傍ニ棲メリ高樹上ニ居處ヲ構ヘ
テ夜徘徊ス諸種ノ果實ヲ愛ス靜愔ナル動物ニ
シテ捕ヘ飼フキハ全日眠ルモノナリ

明治十八年二月廿四日版權免許
明治十八年三月 日出版

定價金壹圓

出版人

東京府士族

岩橋米太郎

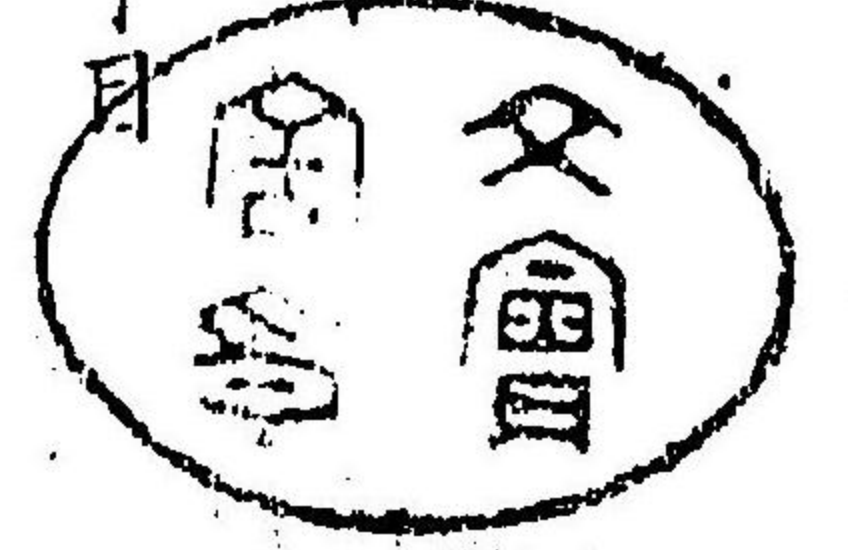


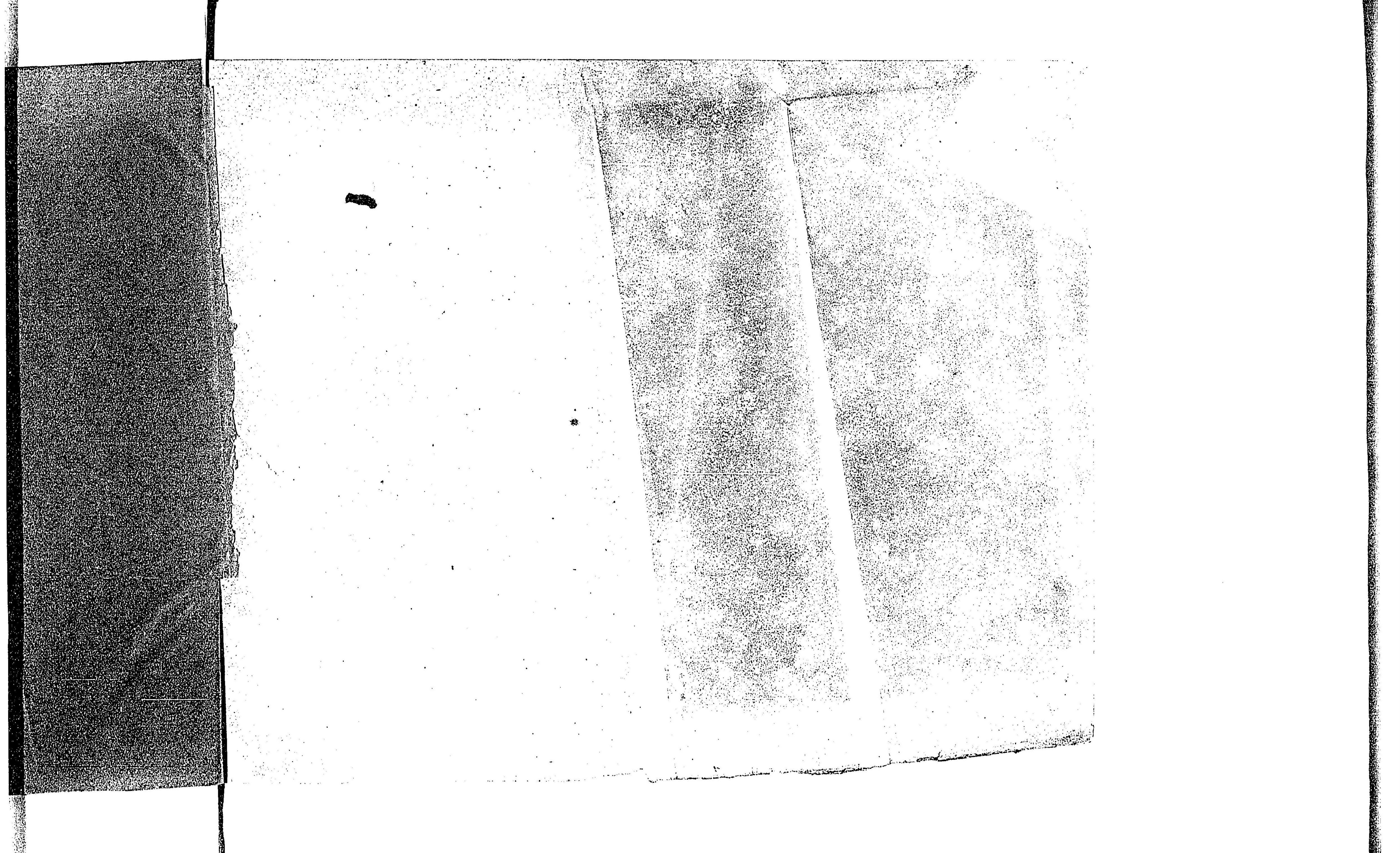
東京糶町區永田町壹丁目
廿四番地

發兌元

文會舎

東京京橋區南鍋町壹丁目
五番地





403
54



057575-001-3

403-54

動物学図解 卷之1-3上

フヒツチンゲル/著

M18-21

CAR-0161



